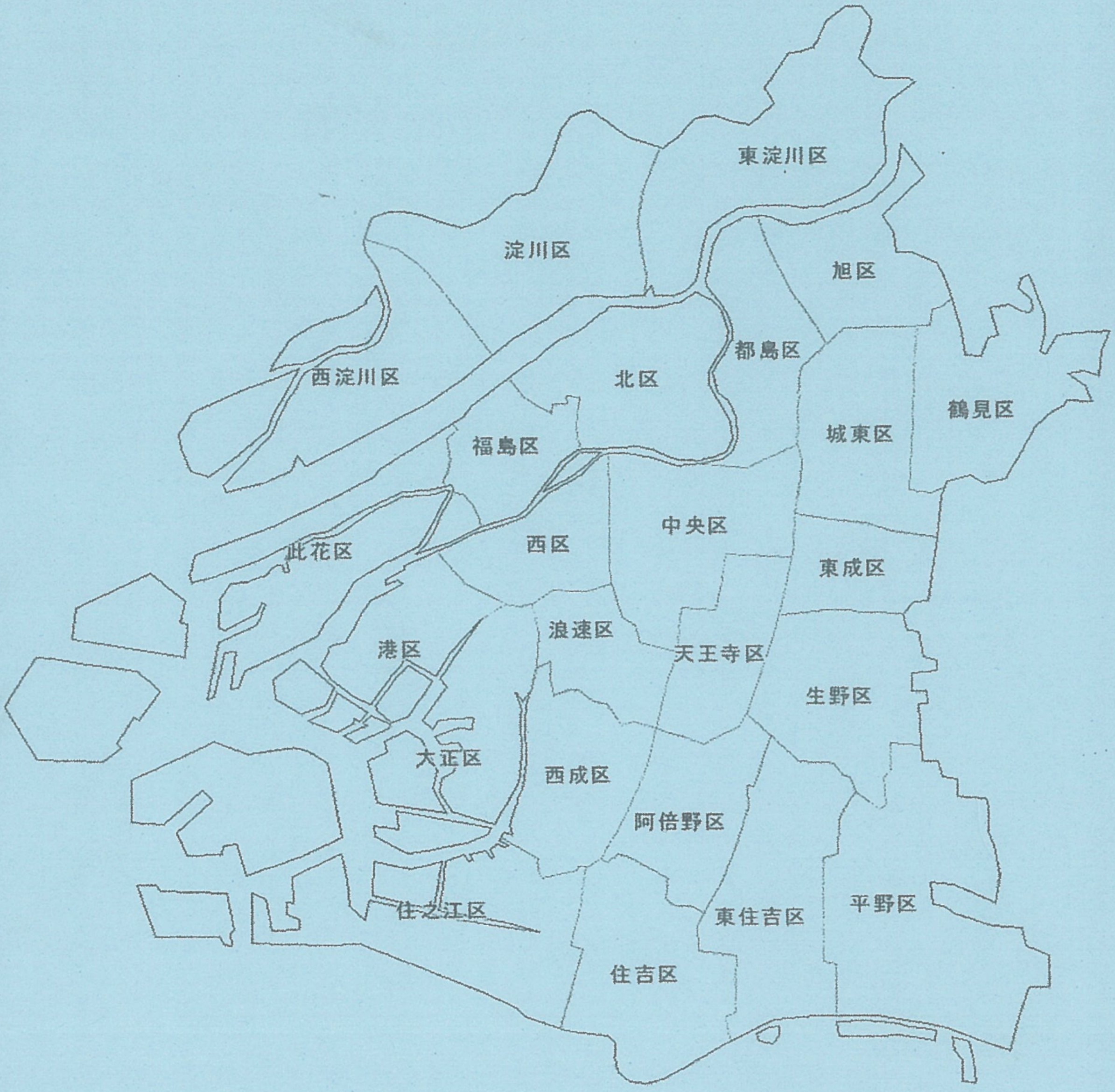


２０１６年度
地域の子ども研究会
活動報告集

目次

研究活動報告

『幼児教育から学校教育への接続期の課題・不安を探る』

子どもたちとの活動

○第 31 回ドッジボール大会
○ともだちフェスティバル
○自然体験活動　リバートレッキング
○将棋交流会・卓球大会
○合同遠足

研修活動の報告

○児童部会　感想
○情報交換

地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指して

○各施設指導員　振り返り

幼児保育から学校教育への接続期の課題・不安を探る

～幼児保育・学校教育・学童保育へ意識の共有、連携を目指して～

文責：望之門学童クラブ
大西　奈々子

研究活動のねらい

・"小１プロブレム"について焦点を当て取り組み始める。テーマ選定に至った背景に、大地協加盟の学童クラブ・子どもの家は保育園が併設している施設が多く、同法人・施設内に子どもたちの乳幼児期を知る職員がいる事で、学童期に何か課題が生じた際に成育歴を遡って振り返る事が出来る。この乳幼児期から学童期へ共通の連続した保育・支援は学童単体の民営学童やいきいき事業では出来ない支援方法であり、他事業との差別化を図る事が出来ると考える。

しかし子ども達が小学校へ進学した事で、子どもたちの生活環境は確実に変化し、乳幼児保育から学童保育へという単なる積み重ねではなく、子ども達の学校生活も踏まえた２４時間を考え、支援していく事が必要である。乳幼児保育をより理解し、今までの子ども達の積み重ねを学び、接続時期の子ども達にどういった生活環境の変化や心の変化が生じるのかを知った上で日々の保育を行う事が、子ども達の接続時期に伴う子ども・保護者の不安の軽減に繋がるのではないかと考え、本研究に至る。

方法

１、乳幼児と学童児の生活環境の違いを調査（２４時間）
２、小１プロブレムについて文献を読み解く
３、幼児期（特に年長児）に入学を見据えて行っている（行うべき）家庭の役割を調査
→家庭の役割として入学準備を行う保護者の負担は？
長時間（特に昼間を保育園で）過ごす子ども達。その時間に携わる施設職員として役割の一端を担うべき事項はないか？

第１章 乳幼児と学童児の生活環境の違いを調査（２４時間）

就学前から入学にあたり子どもたちにとって分かりやすい変化と言えば過ごす場所の変化である。過ごしていた場所（自宅・保育園・幼稚園など）が小学校に変わった事により子どもたちの生活にも変化があるのではと2016年度一年生を持つ保護者から簡単な聞き取り調査を実施。その中から一部抜粋を以下掲載。

A児 7:00 8:00 15:00 19:00 21:00

就学前	起床・朝準備	登園・保育園		帰宅・入浴・夕食	就寝
1年生	起床・朝準備	登校・小学校	学童	帰宅・入浴・夕食	就寝

B児 7:00 8:00 15:00 19:00 21:00

就学前	起床・朝準備	登園・保育園			帰宅・入浴・夕食	就寝
1年生	起床・朝準備	登校・小学校	学童	習い事	帰宅・入浴・夕食	就寝

C児 6:00 7:00 8:00 15:00 19:00 21:00

就学前	朝準備	登園・保育園			帰宅・入浴・夕食	就寝
1年生	朝準備	祖母宅	登校・小学校	学童	帰宅・入浴・夕食	就寝

以上3例が聞き取り調査の中で代表的かつ特徴的なものの抜粋である。
今回の聴き取り対象は大地協加盟の留守家庭児童対策事業を実施する施設（以下「学童クラブ」と記載）で実施したため、子ども達の生活の“場”に変化はあったものの、生活の“時間”に関して大きな変化は見られなかった。

しかしC児の様に朝自宅にて1人で過ごし、自宅の戸締りをして学校へ向う事が困難な児童は近隣の祖父母宅などで過ごしている実態があった。保護者の終業時間等で、聞き取りには表れていないが朝を一人で過ごす児童もいるのではないだろうか。そういった家庭の子ども達の負担・保護者の不安は大きいものだろうと感じる。

第2章 小1プロブレム・接続課題について文献を読み解く

様々な文献が出版されている中、なぜ小1プロブレムという事象が起こるのか・その主な原因はどこにあるのかなど文献を読み解き実態を探る。

1、小1プロブレムに至る要因は何か？（以下参考文献より抜粋）

○就学前のアプローチ期に何を重視して小学校への入学につなげて行くのか明確になっていない。幼児期に育つ力が小学校においてどのように発揮されていくのかを保育者が見通して保育を行う事が大切。

○都市化や地域における地縁的つながりの希薄化、価値基準の流動化等により、保護者が自身を持って子育てに取り組めない状況。子ども同士も交流活動や自然体験の減少などから子どもが社会性を十分身に付ける事が出来ないまま入学する事になり、精神的にも不安定さを持ち、周りの児童との人間関係をうまく構築できず集団生活になじめない。

○保育所での生活の中で1人の職員に対し30名の年長児が過している。そういった環境では先生が頻繁に指示を出さなくてはならず、かつ子どもたちに一斉に同

じことをさせる事も増える。こうなると子どもは「指示されたら動けばいい」と適応し“自律的な秩序感（自分で規律を求める）”が芽生えにくい。年齢にふさわしい秩序感が育たないまま小学校に入学してくる為に起こる。

○就学前教育と小学校教育との接続部分に何かしら「段差」がある為ではないか。接続部分を挟んで送り出す側（保育所）と受け入れる側（小学校）が双方のお互いの教育についてあまりよく知り合えておらず、「段差」を大きくしているのではないか。

○小１プロブレムという言葉から人々が勝手に想像している事象。突如教育界に出現したモンスター級の大問題など存在せず、故に要因もない。若干の問題が存在するとしても前々からあった現象なり出来事に過ぎない。

以上が小１プロブレムに至る要因として記されていたものである。様々な考え方があり、一概に「要因はここにあった」とは断定できず、ただ様々な視点でこの事象が捉えられているという実情把握が出来た。

その上で、実際に教育現場に携わる小学校教諭の方は小１プロブレムについてどう感じ、関わっておられるのか？現状を伺うべく小学校教諭の方に聞き取りを行った。

第３章

H氏

加賀屋小学校高学年児担任・育徳園子どもの家保護者

聞き取り内容から一部抜粋

Q：小１プロブレムと呼ばれるような実態はありますか？

A：ある。小学校一年生の初めは自分の机があり、中にはお道具箱や教科書が入っていて子どもたちは気になって気になって…。そこで先生は「手はおひざ」と言い、我慢出来るか出来ないかの差だと思う。【自己抑制】

Q：入学までに保育園や家庭でしていて欲しいといった要望などはありますか？

A：要望は特に…。今で十分して下さっていると思う。逆に家庭や園でひらがななど取り組まれているのか？かける子ほど鉛筆の持ち方が間違っていたり、書き順がめちゃくちゃだったり…。やるなら鉛筆の持ち方からしてほしいですね。

Q：幼児さんは“文字”を“図形”として認識するから書き順などの過程よりも出来たという達成感なのでしょうね。でも学習を教える側からすると一度ついてしまった癖を直すよりも一から教えた方が浸透しやすいということでしょうか。では小学校に行くまでひらがななど教える必要はない？

A：担任は“（ひらがなを）知っている”子に合わせるのではなく“知らない前提”で授業を組み立てます。ですが、ひらがなの（教える）スピードは早いですね。
学校は１年生にとって『辛い所』だと思います。わかっていても待たなくてはならず

わからなくてもつらいですよね。

Q：では園などで就学前にどういった取り組みが良いと思われますか？

A：実感ですが…。保育園などでのびのび過ごしてくれている方が"一年生"という自覚を持たせやすいですね。あと歌を沢山歌ってくれているようなので、その点は他の子を引っ張っていってくれるのでありがたいです。図工などでも園での制作遊びの経験からか表現豊かで色んなものに見立てたり、集団でする大きな制作などにも積極的で経験してきたからこそかなと思います。

Q：保育園での経験が図工や音楽などの学習につながり、自尊心が芽生え育まれている良い例ですね。

A：幼児期に幸せな経験（共同制作など、他児と共に楽しむ経験）を沢山していて欲しいと思います。

Q：集団遊びの楽しさを知っていて欲しいという事でしょうか？

A：そうですね、小学校でもみんな遊びと言ってクラス単位で集団遊びを行う時間は設けています。地域の数施設から入学してきますので今の子たちは学習面よりも人間関係にしんどさを感じるのではないでしょうか。園ごとのルールが違い、今まではそれぞれに「このルールが絶対!!一番楽しい。」と思ってやってきていたわけですからその価値観の違いからトラブルになることも少なくありません。そういった場合は担任が仲立ちをして新しいルールを作れるようにします。園での結束力は強く、高学年になっても「私ら○○園～」と集まり、夏のお祭りなどに行くみたいですね。一つの居場所として安心するんだと思います。

Q：保護者の変化などは感じますか？

A：保護者は確かに昔とは違うという面があります。子どもたちは多少メディアなどの影響か大人びたこと言うなと思う子もいますが可愛さは昔と変わらないというか。でも子どもって保護者の都合がそのまま影響されるじゃないですか。「何か荒れてるな」と思ったら「離婚するねん」とさみしそうに言っていたり…。
最近は母子分離できていない子が多く感じます。そういう子は一概に言ってはいけないかもしれませんが自尊心が低いと感じる子が多いですね。

Q：何かエピソード的な例はありますか？

A：小学校に入学して間もなくは沢山いますが、時間がたっても子どもの言われるがまま小学校に送り迎えしていたり…。保育園でもありますよね？子どもは意外と保護者が行かれた後はケロッとしている。要は保護者が子離れ出来ていないケースですね。そこに子どもも依存します。学年が上がると学校へ来なくなるケースもあります。おなかが痛い・寝坊した・休みたいと言っている等の理由で保護者から休みの連絡が入ります。そういった場合、保護者が困っていれば手を出しやすいんですけどね。

Q：どういった対応をされるんですか？

A：朝・昼・夕方に自宅訪問ですね。保護者と信頼関係が出来、了解を得られていれば連

れ出して学校へ引っ張っていきます。

Q：そうなんですね。そういった対応は学校によって異なりますか？

A：学校というか…個人で違うと思います。

Q：では最後に、小１プロブレムという言葉・事象は最近出てきたものだと思いますか？昔からあったものですか？

A：それは昔からありましたね。子どもの質も昔と変わっていないと思います。名前が付いて文献も沢山出たので、最近取りあげられているだけで存在したと思いますよ。ただ年数の長い教員は他の学年の教員と連携しながら引き継いで「今年の積み残しは次年度」という様に一年完結で考えるのではなく１年生から６年生で育ってもらえたらいいと思っていますが、新任の先生は「何とかしないと!!」と焦ってしまって、更に技術も乏しいし大変だと思います。

『小１ギャップ』という言葉の方がしっくりくるかと思いますね。

現在、小学校教諭をされているＨ氏から貴重な率直な実感を聞かせて頂いた。

その中でもひらがなやたしざんではなく、様々な経験が学校での学びに結びつく事、それが子どもたちの自尊感情の高まりとして育まれている事に大きな安心と喜びが見いだされた聞き取りとなった。

第４章

入学に向けて子どもたちの負担軽減と保護者の不安解消のために何ができるのか？と考えてみると、やはり就学前に「ひらがなを覚えなくて良い」と言われても「うちの子だけわからないんじゃないか？」と不安になるのが親心だろう。実際に年長児期に自宅学習や習い事等でひらがなを習得している子も少なくない。そこで、保護者は子どもたちの何に対して不安に思うのか？を把握すべくアンケート調査を実施する。それに伴い、子どもたちと日々過ごしている年長児の担任にも同様に、集団学習となる小学校に向けて不安に思う事を調査する。

2016年12月、大阪市の保育園45施設にアンケートを発送し、43施設996名の保護者の方より就学に向けての不安や期待など貴重な意見を伺えた。

また同じく同施設の年長児担任保育士向けにもアンケートを発送し、40施設77名から、共に集団で過ごす中で見える子どもたちの個々の個性や特徴により、集団学習へと移った際の予測される行動から見える不安や、今までの対応・大切にされてきた保育や就学に向けて施設で取り組まれている活動を記述式にて教えて頂いた。

（各施設へ、保護者アンケート全集計結果・保護者アンケート貴園結果・保育士アンケート全集計結果を発送済）

小学校就学予定のお子様に関するアンケート集計

1. 就学にあたって不安な点はありますか？

ある	776
ない	220

ある	学習面	友達関係	食事面	教員との関	生活面	放課後の過	地域の環境	登下校	保育園・幼	保護者同士	子どもの発	その他
	395	492	102	172	173	328	64	330	317	106	87	25
ない	兄姉がいる	困ったとき	何とかなる	特にない	その他							
	135	51	81	12	6							

2. 就学までにお子様に身に付けてほしいことはどんなことですか？

	読み書きが	人と仲良く	礼儀・行儀	挨拶ができ	排泄・着替	人の話を聞	思いやりの	自分の思い	その他
1番	133	225	99	129	46	140	55	165	12
2番	71	138	124	115	46	187	112	184	3
3番	94	120	134	65	39	141	130	238	10
合計	298	483	357	309	131	468	297	587	25

3. 就学に向けて、ご家庭で行っていることはありますか？

ある	746
ない	249

ある	運動系の習	学習系の習	地域を一人	家庭での学	生活習慣に	その他
	229	208	112	371	444	40
ない	運動系の習	学習系の習	地域を一人	家庭での学	生活習慣に	その他
	67	54	56	57	57	30

4. 子育てについてどのようなことで悩んでいますか？

回答数	487

5. 子育てについて相談できる方はいますか？

いる	969
いない	17

	夫・妻	祖父母	友人	兄弟	保育士	専門機関	その他
いる	715	639	668	234	277	51	28

6. 就学後のお子様の成長について期待しているのはどのような点ですか？

読み書きが	人と仲良く	礼儀・行儀	挨拶ができ	排泄・着替	人の話しを	思いやりの	自分の思い	特に無い	その他
405	605	411	343	123	424	458	496	22	28

7. 就学予定の小学校には、同じ保育園から何名就学予定ですか？

本人のみ	135
本人以外の人数（1～5人）	298
本人以外の人数（6～10人）	176
本人以外の人数（11～15人）	36
本人以外の人数（16人～）	45

回答者について

父	母	祖父	祖母	その他
31	962	0	3	0

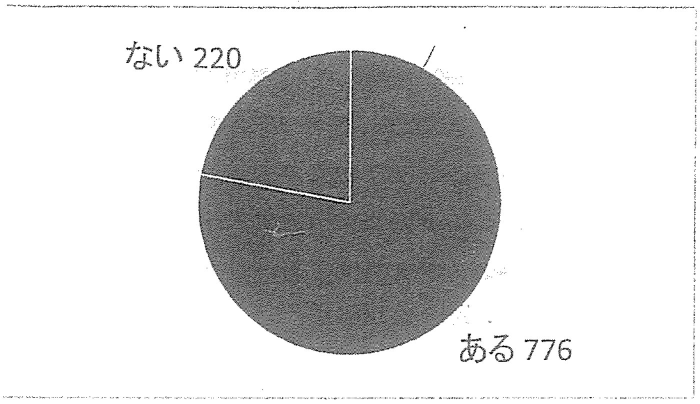
20代	65
30代	512
40代	314
50代	6
60代	1
70代	0
80代	0

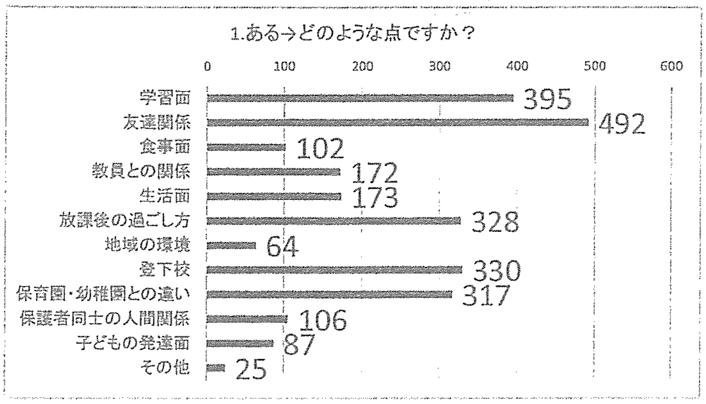
男の子	473
女の子	517

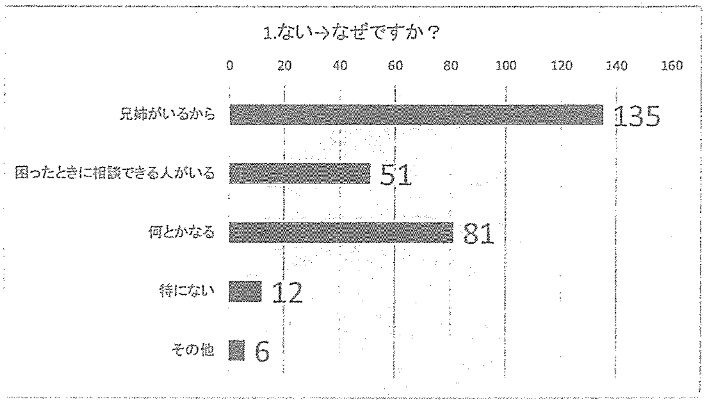
保育園名　43施設集計

回答者数　996　名

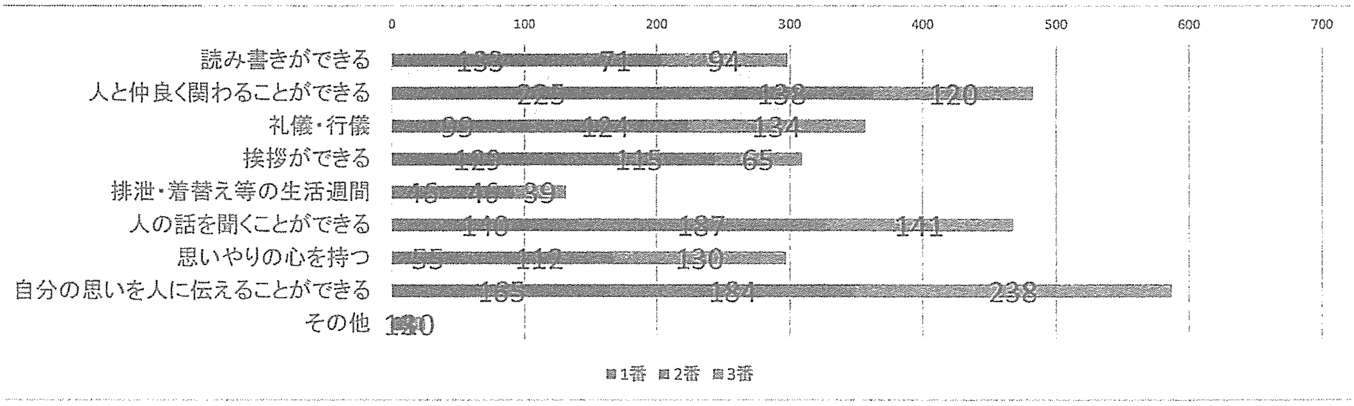
1. 就学にあたって不安な点はありますか？



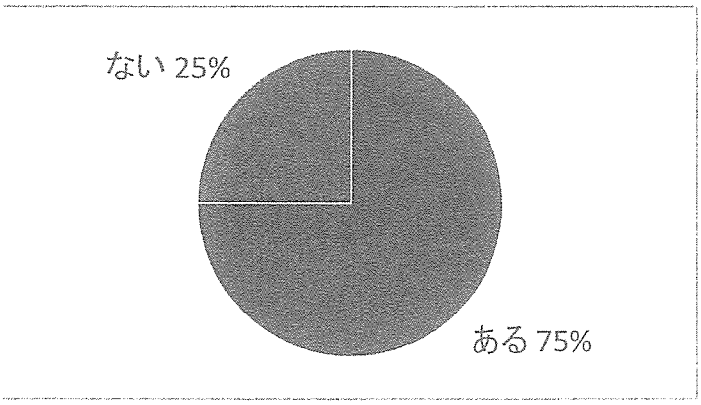


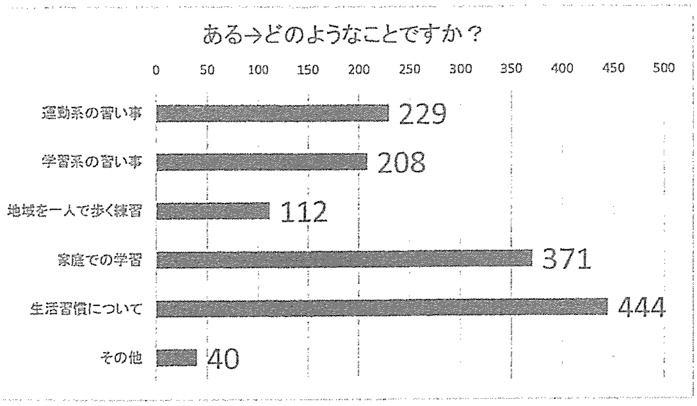


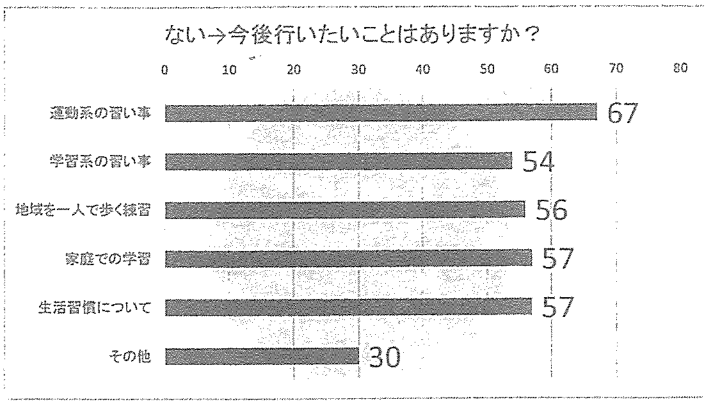
2. 就学までにお子様に身に付けてほしいことはどんなことですか？



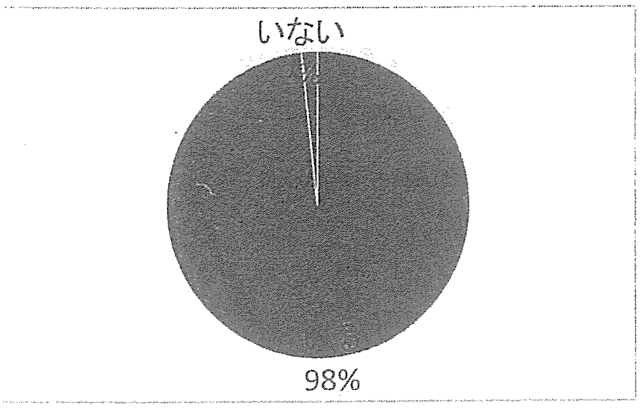
3. 就学に向けて、ご家庭で行っていることはありますか？

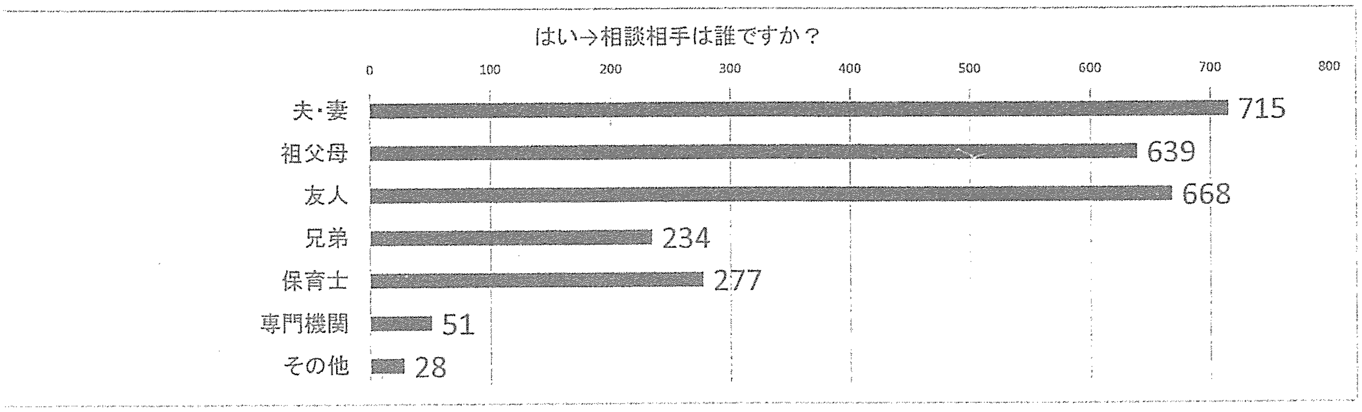




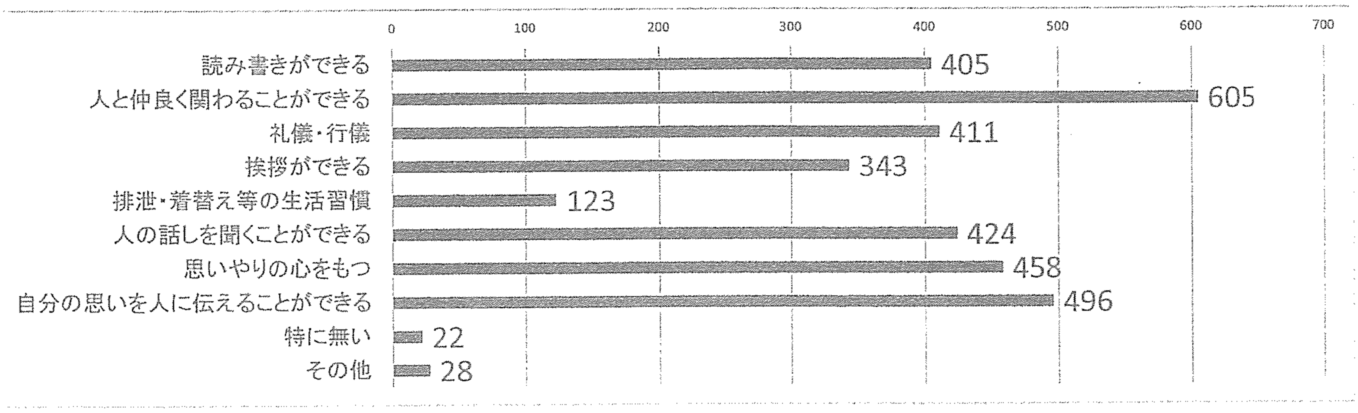


5. 子育てについて相談できる方はいますか？

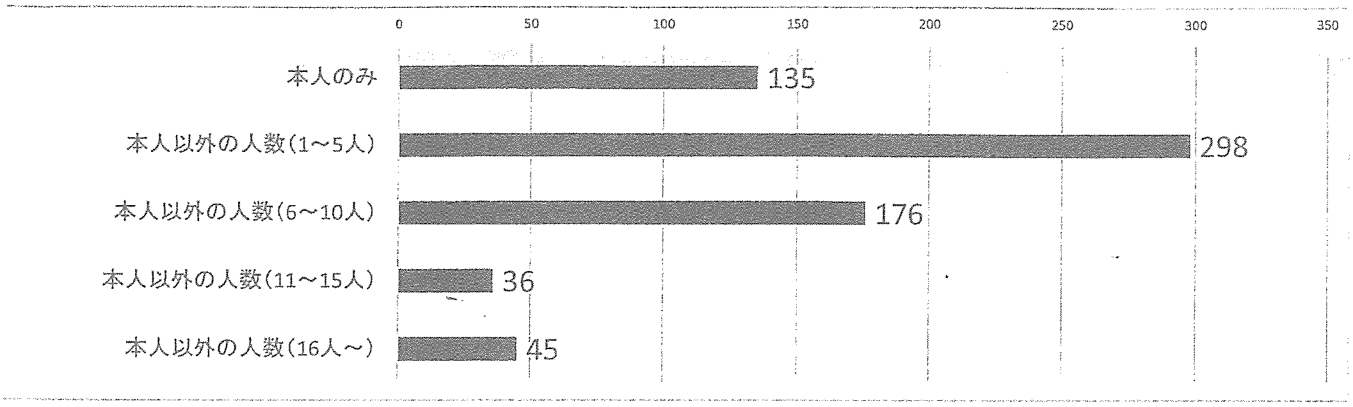




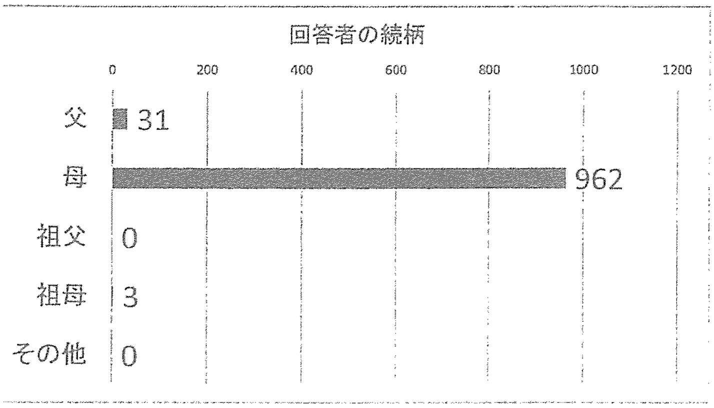
6. 就学後のお子様の成長について期待しているのはどのような点ですか？

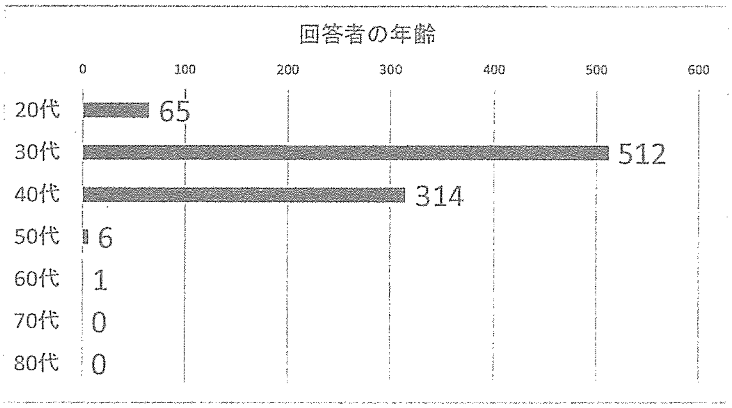


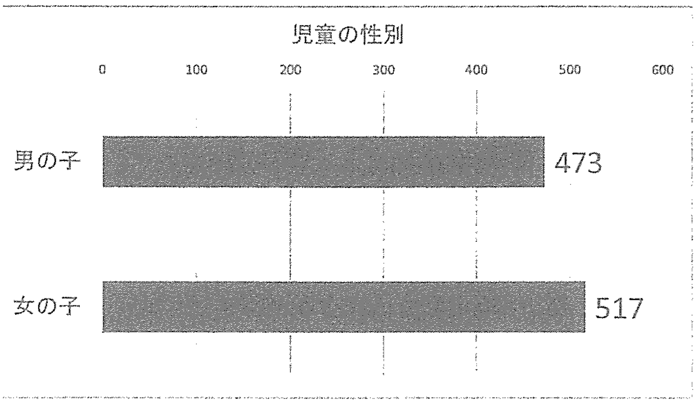
7. 就学予定の小学校には、同じ保育園から何名就学予定ですか？


0
50
100
150
200
250
300
350
本人のみ
135
本人以外の人数(1～5人)
298
本人以外の人数(6～10人)
176
本人以外の人数(11～15人)
36
本人以外の人数(16人～)
45

回答者について


回答者の続柄
0
200
400
600
800
1000
1200
父
31
母
962
祖父
0
祖母
3
その他
0


回答者の年齢
0
100
200
300
400
500
600
20代
65
30代
512
40代
314
50代
6
60代
1
70代
0
80代
0


児童の性別
0
100
200
300
400
500
600
男の子
473
女の子
517

保育士アンケート集計

Q1.小学校への引き継ぎ（児童要録等）で重要視している点はどのような点ですか？

項目	回答人数	割合
援助が必要な子どもの発達面やアレルギーなど	18	23%
園での様子・集団の中での様子	10	13%
子どもの性格・個性・特徴	33	43%
他児との関わりで気になる点	13	17%
家庭環境や保護者についてなど	21	27%
保育士が行っていた関わり方について	20	26%
教員に求める事	8	10%
その他	14	18%

Q2.子ども達が就学するにあたり、不安な事はどのような事ですか？

項目	回答人数	割合
学習面（周りの子・授業内容についていけるかどうか）	12	16%
友達関係	31	40%
食事・生活面・持ち物管理	8	10%
教員との関係・個別に丁寧な対応	9	12%
放課後の過ごし方	0	0%
地域の環境	0	0%
登下校	0	0%
保育園・幼稚園と小学校との違い	19	25%
保護者同士の人間関係	0	0%
子どもの発達面・一日の見通し	9	12%
椅子に４５分座れるか・その間集中できるか	22	29%
困った時に対応できるか	12	16%
社会性が身についているか	1	1%
特になし	4	5%
その他	18	23%

Q3.就学に向けて取り組んでいることを教えてください

項目	回答人数	割合
ひらがな・数字・時計などのワーク	28	36%
人と仲良く関わる事が出来る・集団遊び	13	17%
礼儀・行儀・挨拶など社会性	17	22%
排泄・着替え・食事等生活習慣・持ち物管理	33	43%
４５分・椅子、机を使用する等小学校を意識した活動	19	25%
集団の中で話を聞く	19	25%
５歳児のみの活動	7	9%
自信・自尊感情・自己肯定感が高められるように	4	5%
主体性・チャレンジ精神	11	14%
自己表現の場・気持ちを伝える	20	26%
その他	38	49%

Q4.子ども達が就学するにあたり小学校に求める事はありますか？

項目	回答人数	割合
保育園との連携（双方見学、幼児保育に関心を持ってほしい）	21	27%
ひとり一人の関わり・配慮を丁寧にしてほしい、個別対応	29	38%
環境の変化・不安を受け止めてあげて欲しい	9	12%
子ども達が安心して楽しく過ごせるように	8	10%
自己肯定感が持てるような関わり	7	9%
家庭との連携	3	4%
要録の活用	4	5%
特になし	9	12%
その他	14	18%

Q5.子ども達が就学するにあたり保護者に求める事はありますか？

項目	回答人数	割合
生活リズム・習慣を身に付けてあげて欲しい	14	18%
子どもとの時間を取り、様子を聞いたり、遊んだり、翌日の用意を一緒にしてほしい	21	27%
（過保護・過干渉の親に対して）見守り・自分の事は自分で	27	35%
子どもの様子・変化に気付いて	10	13%
子どもの成長に寄り添って	8	10%
学校との連携	3	4%
地域との関わり	1	1%
特になし	9	12%
その他	14	18%

回答者の年齢

項目	回答人数	割合
20代	38	50%
30代	25	33%
40代	7	9%
50代	6	8%
合計	76	100%

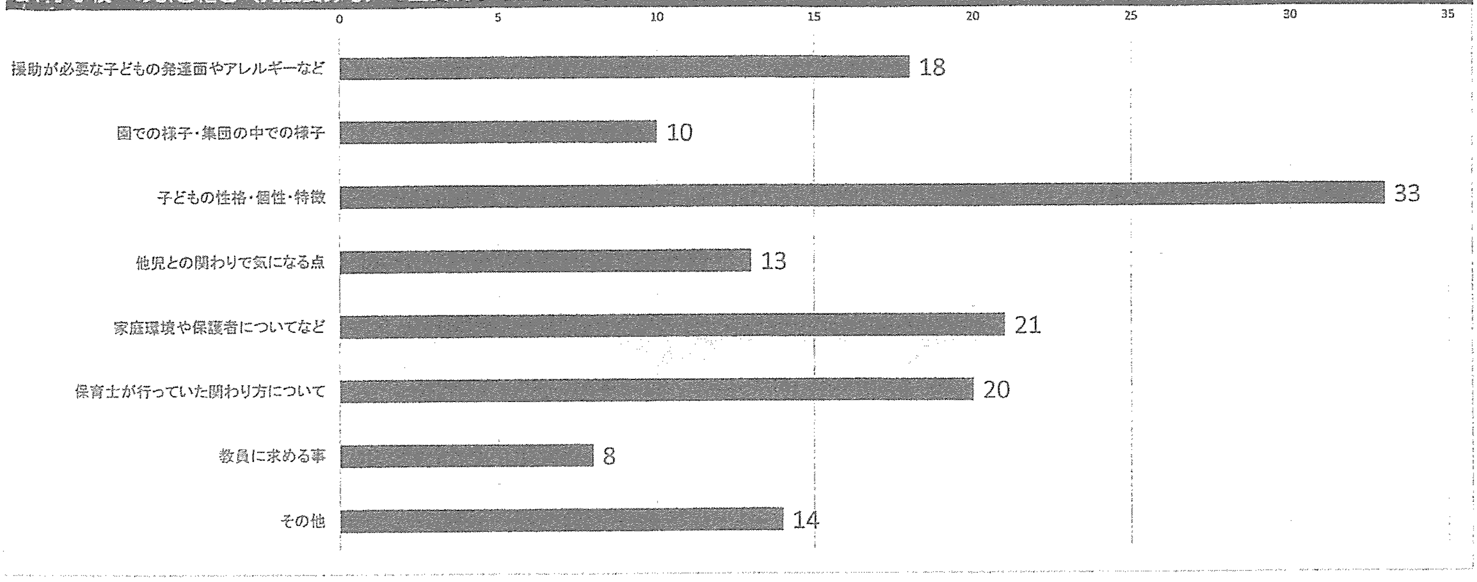
回答者の保育経験年数

項目	回答人数	割合
1～3年	13	17%
4～6年	18	24%
7～9年	11	15%
10～12年	7	9%
13～15年	7	9%
16～18年	10	13%
19～21年	4	5%
22～24年	1	1%
25～27年	0	0%
28～30年	2	3%
31～33年	1	1%
34～36年	1	1%
37～40年	0	0%
合計	75	100%

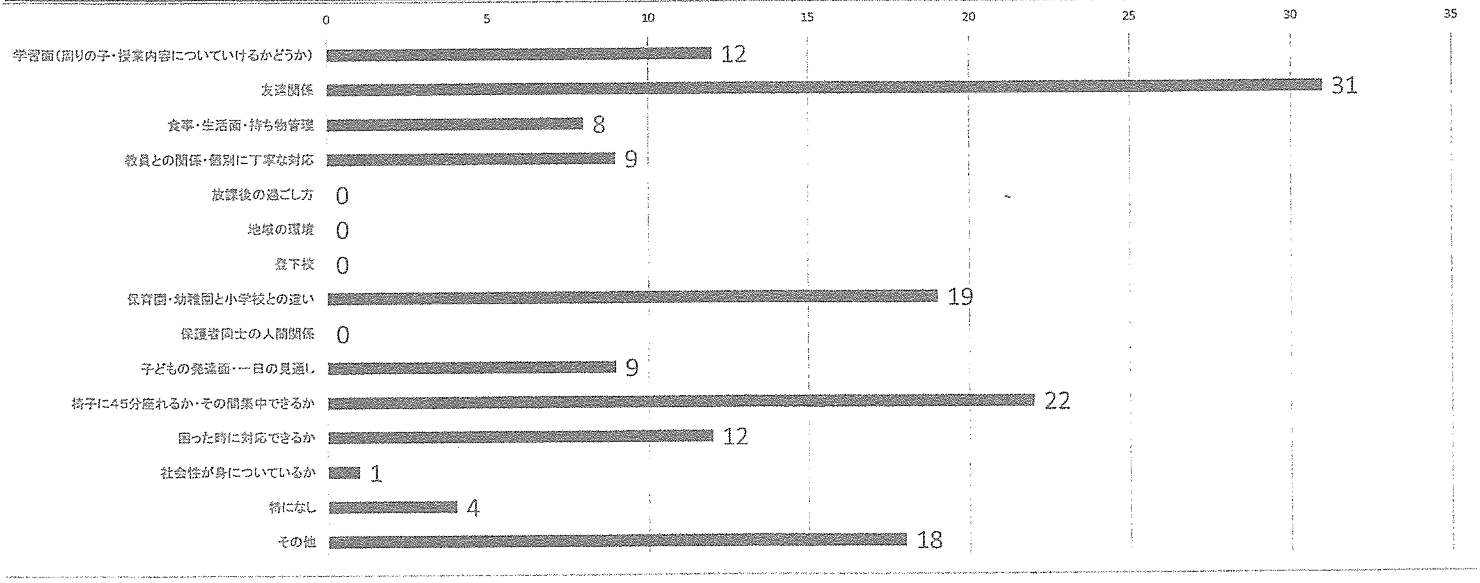
回答者の年長児クラスの保育経験年数

項目	回答人数	割合
1年	28	37%
2年	16	21%
3年	13	17%
4年	6	8%
5年	5	7%
6年	1	1%
7年	1	1%
8年	2	3%
9年	0	0%
10年	0	0%
11年～19年	1	1%
20年～29年	2	3%
30年～39年	0	0%
合計	75	100%

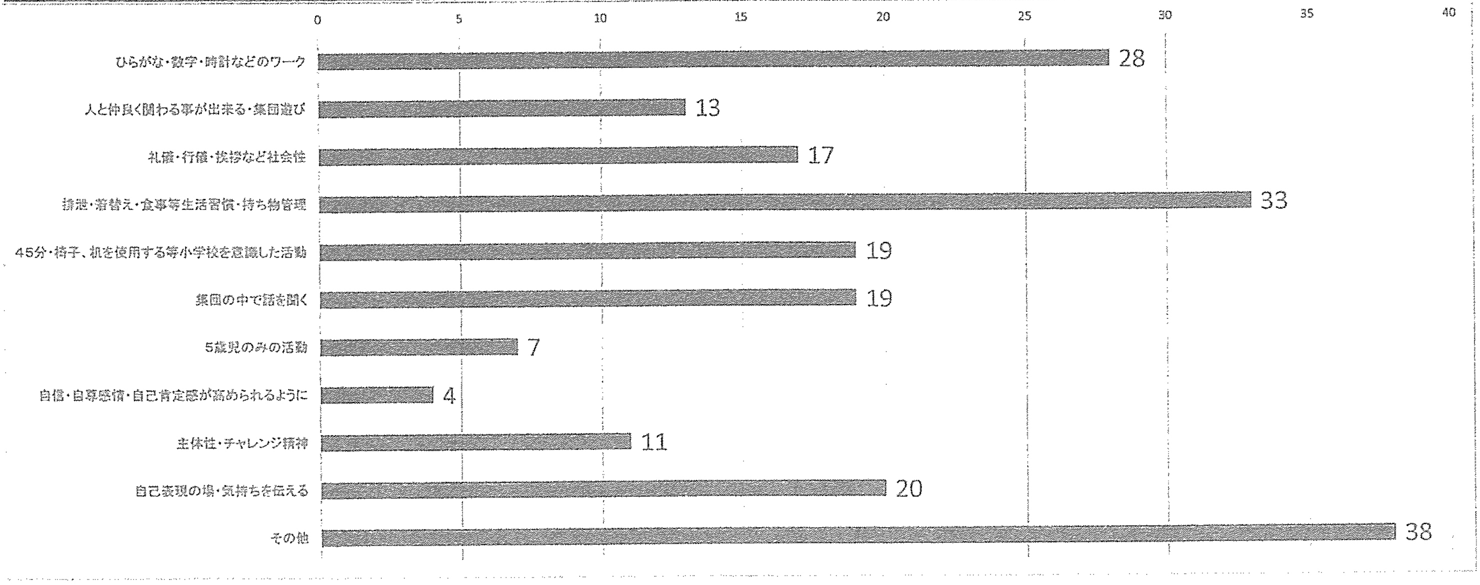
Q1.小学校への引き継ぎ（児童要録等）で重要視している点はどのような点ですか？



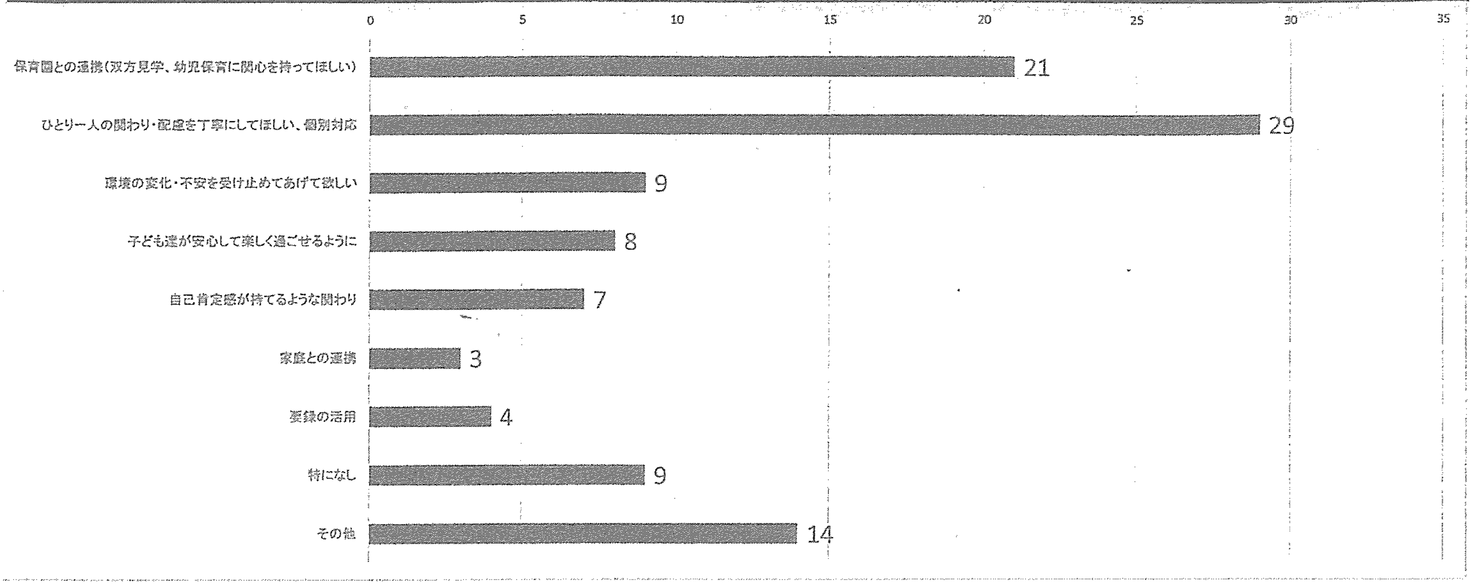
Q2.子ども達が就学するにあたり、不安な事はどのような事ですか？



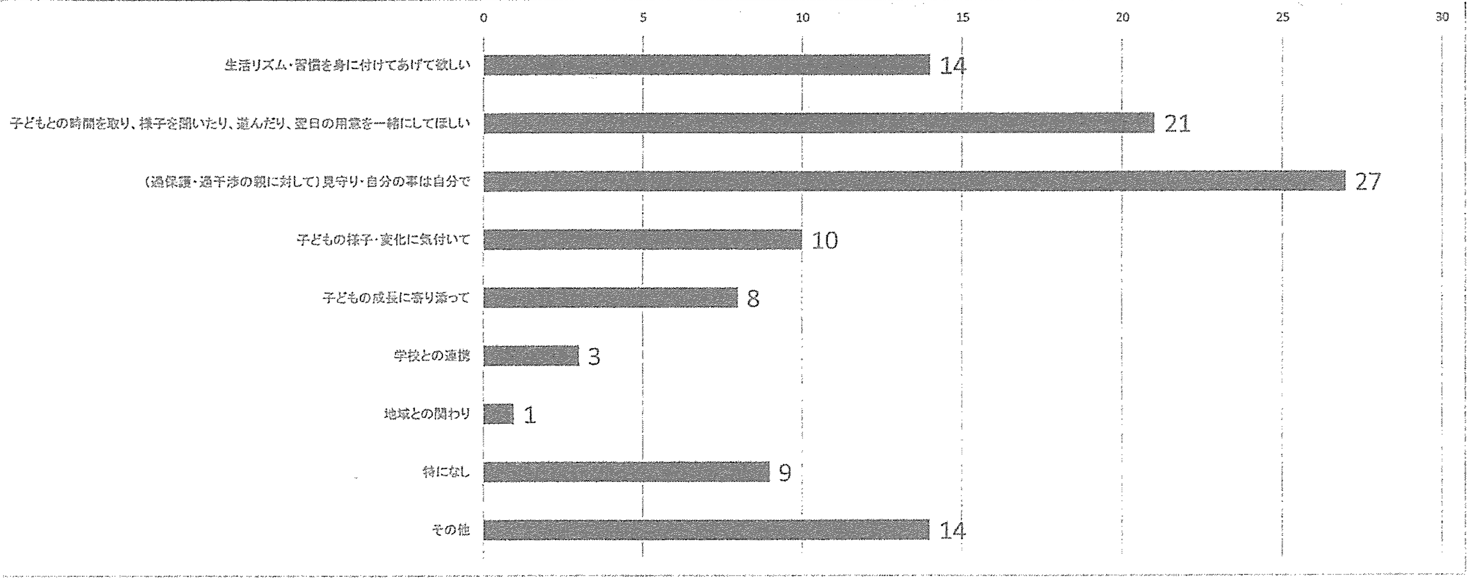
Q3.就学に向けて取り組んでいることを教えてください



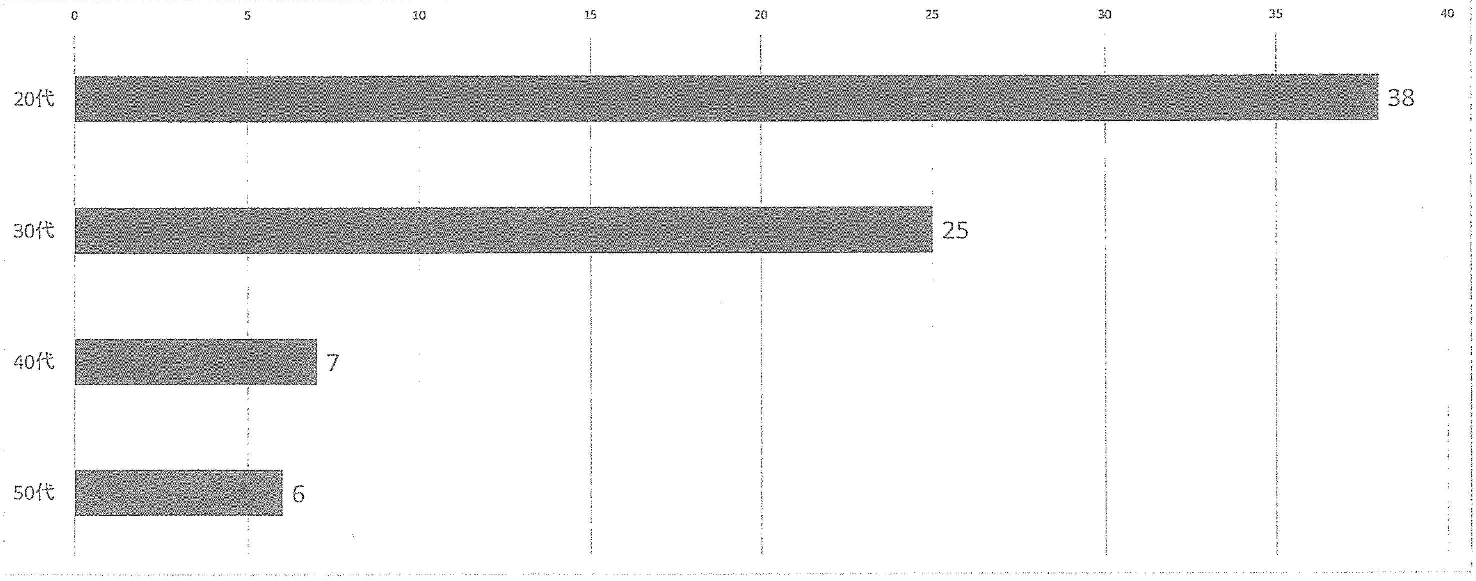
Q4.子ども達が就学するにあたり小学校に求める事はありますか？



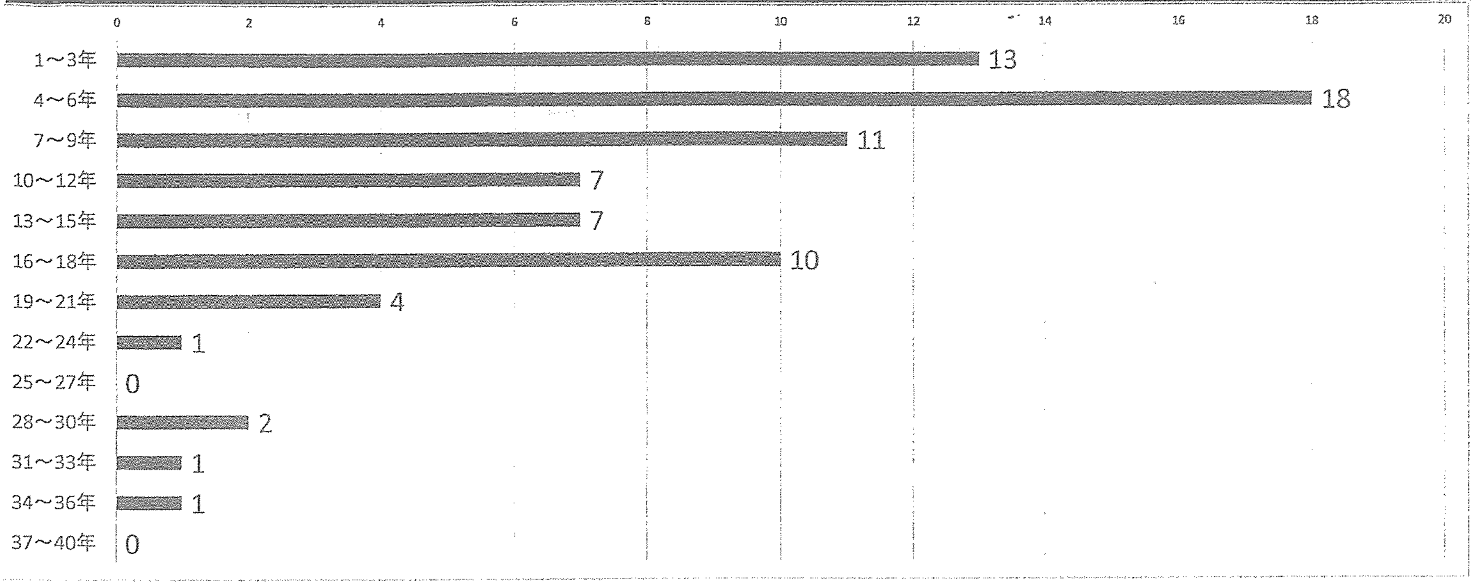
Q5.子ども達が就学するにあたり保護者に求める事はありますか？



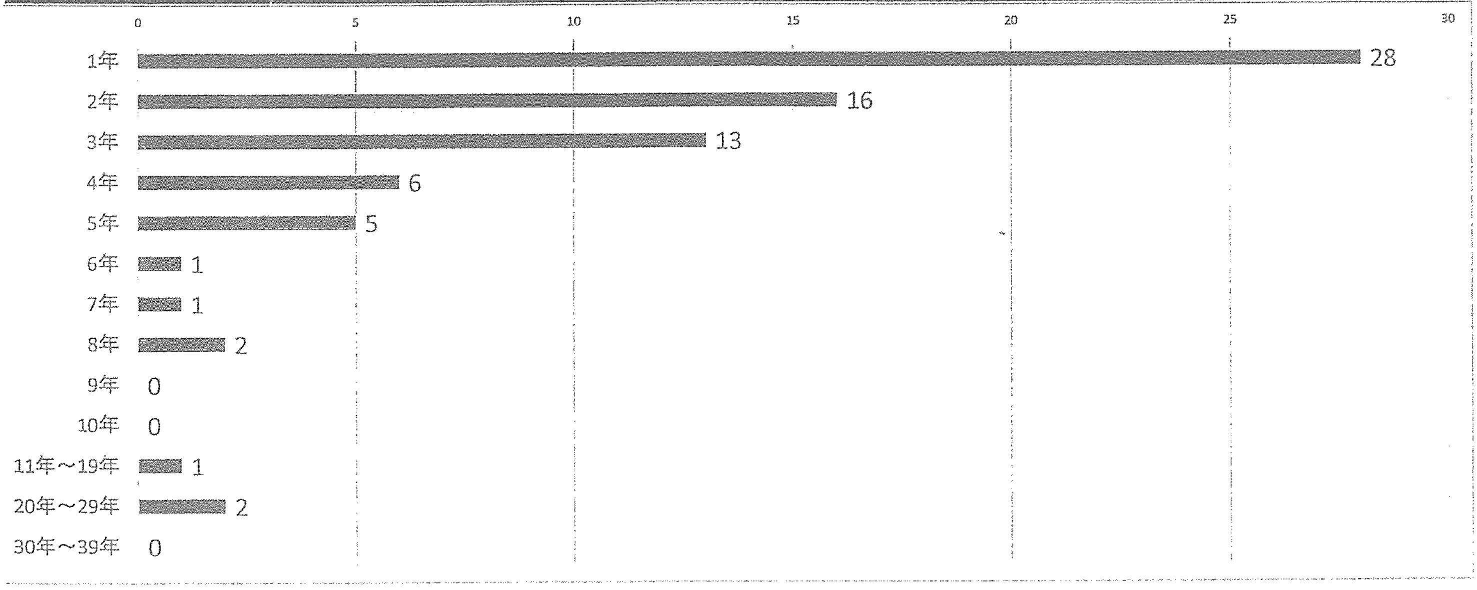
回答者の年齢



回答者の保育経験年数



回答者の年長児クラスの保育経験年数



アンケート集計後に再度小学校教諭の方をお招きし、結果をもとに聞き取りと、今後の保育士対象の研修会実施に向けて打ち合わせを行った。その際、子育て研究会からスタッフ２名と、現在５歳児担任をされている職員２名にも同席して頂き、アンケートから伺える保護者の不安や期待を読み解き、実際の保育現場での姿・小学校入学直後の子どもたちの姿や保護者の様子など意見交換を行った。

気になったキーワードは保育士・小学校教諭・学童指導員共に“友達関係への不安”という所であった。子どもたちの個性や得手不得手、保育園や家庭での姿などから鑑み、不安に思う保護者が多いであろう事が伺えた。

２、就学までに身に着けてほしい事という設問では“学習面”の総数よりも“人と仲良くかかわる”“人の話を聞く”“自分の思いを相手に伝える事が出来る”等に票が集まっている。これについては「ひらがな・カタカナは就学前に身に着けなくて良い」と思っての回答ではなく、次項３、就学に向けて家庭で行っている事として「すでに取得している・就学までに習得できる見込み」との思いの背景からの数字かと思われる。保護者アンケート記述欄では『幼稚園や学習塾などで就学前学習を沢山している子たちばかりだと自分の子どもが授業に取り残されないか不安』との回答もあった。こういった意見を小学校教諭の方に聞いてみると「就学前学習をし、ひらがなや足し算を習得している子は少なくないが全く知らない想定で授業を行う」「ひらがなを書ける子の方が“出来るんだ”という自信から書き順や鉛筆の持ち方に対して声を掛けても素直に受け入れられない子が多い」「しかし確かに授業スピードが速いと感じる事もある」との現状を教えて頂いた。

打ち合わせさせて頂いた小学校教諭の方々は、保育園で幸せな経験（歌をのびのび歌う事や友だちと沢山遊び、一緒に遊ぶことが楽しいと感じる経験など）をしてくれているからこそ、子どもたちが学校へ来た際に自信を持って歌ったり、友だちを関わったり、困っていたら声を掛けてくれるんだとおっしゃっていた。

就学に当たって、学習面だけではなく、子どもたちの居場所・行動範囲・世界の広がりが期待できる反面、それが不安に思う保護者もいるだろう。放課後の過ごし方、地域環境、登下校などを不安にあげる保護者も多い。それに対して保育士アンケートではそれらを不安に思う総数はゼロであった。保育士アンケートが記述式の為そういった内容を書くという想定外であったという見方も出来るが、学童指導員として子どもたちを送り出す保育士に学校の中だけではない“小学生の生活”に目を向け保護者に寄り添ってほしいと感じる。そういった点では学童指導員も施設に来ている子どもたちの放課後の居場所の確保・充実だけでなく、共に地域に過ごす小学生時期の子どもたちがどういった居場所で放課後を過ごし、そこにはどんな課題があるのかをニーズ調査しなければならないと感じている。

今後について、本アンケートを元に保育士・小学校教諭・学童指導員など子どもたちの接続期に関わる方々と共に、保護者の就学に対しての不安をどう受け止め保育に活かせるのか、施設では、地域ではどういった支援が出来るのか、今の地域社会・子どもたちを取り巻く環境の中での課題・ニーズはどこにあるのかなど模索できる、きっかけとなるよう

な研究・研修会を引き続き企画、計画していく。

【研究活動スタッフ】

阿さひ保育園つくし会	吉野　裕志
育徳園子どもの家	隈元　まひる
今池こどもの家	多賀井　潤一郎
長居子どもの家	大山　彬子
望之門学童クラブ	大西　奈々子
やまと保育園子どもの家	角中　恒介

子ども

たち

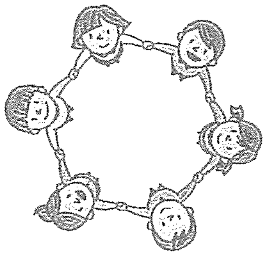
との

活動

子どもたちとの活動グループ

【はじめに】

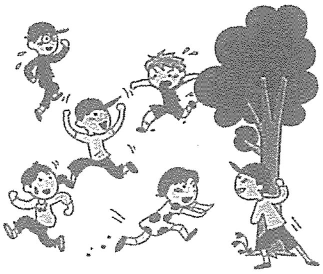
このグループでは、合同行事等を通じ、他施設の人（子ども・支援員）との交流・地域の子どもたちとの交流から生まれる子どもたちの出会いとふれあいを大切にし、その中で子どもたちが自身を知り、他者を思い、輪が広がるような活動を目指すことを、活動の目標・内容としてきました。また、行事のねらいや役割を再確認しながら新しい視点をもち、合同行事だけに囚われることなく、年間を通した子どもたちの交流の先にはどういった展望が見出せるのかを考え、そこから中高生活動へと連続した繋がりになるよう企画することをねらいとしてきました。



目標：１学期…他施設の人と出会い、知る
　　　２学期…色々な施設を知り、交流の輪を広げる。
　　　３学期…仲間と思える関係作り

[合同遠足]

“交流”というテーマの１つの取組みとして他施設との合同遠足を開催しました。



６月１１日（土）浜寺公園
［愛染橋児童館・長居子どもの家］
６月１８日（土）二色浜公園
［育徳園子どもの家・今池子どもの家・阿さひ保育園つくし会］
６月２６日（土）扇町公園
［今川学園子どもの家・やまと子どもの家・望之門学童クラブ］

大縄や鬼ごっこ、水あそび、ドッジボール等、子どもたちが好きな遊びを通して他施設の子どもと繋がる姿が見られました。

[他施設との合作企画]

・ペナント作り

他施設と“交流”した証として自施設で作ったペナントを友だちフェスティバルで交換しました。各施設で円にして飾っています。

子どもたちが普段の生活の中でも他施設を意識し、輪になったことを意識してもらうことをねらいとした取組みです。

・カレンダー作り

各施設がひと月分を担当し、２０１７年１月～２０１８年３月までのカレンダーを作りました。

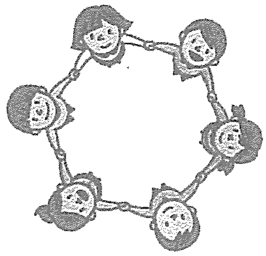
【おわりに】

今回の取組みを生かし、来年度は“繋がる”をテーマに、合同行事を含む他施設との交流はもちろん、中高生まで連続した繋がり、交流が出来る様取り組んでいきたいです。

子どもたちとの活動グループ

【はじめに】

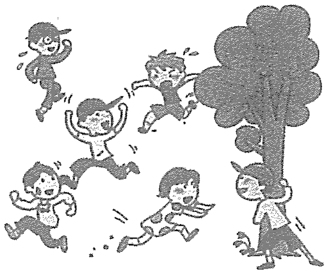
このグループでは、合同行事等を通じ、他施設の人（子ども・支援員）との交流・地域の子どもたちとの交流から生まれる子どもたちの出会いとふれあいを大切にし、その中で子どもたちが自身を知り、他者を思い、輪が広がるような活動を目指すことを、活動の目標・内容としてきました。また、行事のねらいや役割を再確認しながら新しい視点をもち、合同行事だけに囚われることなく、年間を通した子どもたちの交流の先にはどういった展望が見出せるのかを考え、そこから中高生活動へと連続した繋がりになるよう企画することをねらいとしてきました。



目標：１学期…他施設の人と出会い、知る
　　　２学期…色々な施設を知り、交流の輪を広げる。
　　　３学期…仲間と思える関係作り

［合同遠足］

“交流”というテーマの１つの取組みとして他施設との合同遠足を開催しました。

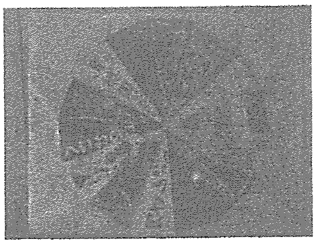


６月１１日（土）浜寺公園
［愛染橋児童館・長居子どもの家］
６月１８日（土）二色浜公園
［育徳園子どもの家・今池子どもの家・阿さひ保育園つくし会］
６月２６日（土）扇町公園
［今川学園子どもの家・やまと子どもの家・望之門学童クラブ］

大縄や鬼ごっこ、水あそび、ドッジボール等、子どもたちが好きな遊びを通して他施設の子どもと繋がる姿が見られました。

［他施設との合作企画］

・ペナント作り



他施設と“交流”した証として自施設で作ったペナントを友だちフェスティバルで交換しました。各施設で円にして飾っています。

子どもたちが普段の生活の中でも他施設を意識し、輪になったことを意識してもらうことをねらいとした取組みです。

・カレンダー作り

各施設がひと月分を担当し、２０１７年１月～２０１８年３月までのカレンダーを作りました。

【おわりに】

今回の取組みを生かし、来年度は“繋がる”をテーマに、合同行事を含む他施設との交流はもちろん、中高生まで連続した繋がり、交流が出来る様取り組んでいきたいです。

『 第31回ともだちドッジボール大会 』

文責：今池こどもの家　多賀井 潤一郎

【日　時】 2016年5月29日(日)9:00～16:00

【場　所】 大阪市立長居小学校

【参加施設】 11施設(愛染橋児童館学童クラブ・阿さひ保育園つくし会・育徳園子どもの家・今池こどもの家・今川学園子どもの家・四貫島友隣館子どもの家・長居子どもの家・望之門学童クラブ・平和の子子どもの家・都島児童館・やまと保育園子どもの家)

【参加人数】 小学生379名 ＋ 中高生ボランティア10名

【成　績】

★１年生の部★
優　勝　育徳園子どもの家
準優勝　今川学園子どもの家

★２年生１リーグの部★
優　勝　あいすチーム
準優勝　うみチーム

★２年生２リーグの部★
優　勝　おりんぴっくチーム
　　　　かいがらチーム
　　　　きあいチーム
準優勝　該当なし

★３・４年生の部★
優　勝　育徳園・今池 合同チーム
準優勝　望之門・四貫島 合同チーム

★５・６年生の部★
優　勝　愛染橋・長居 合同チーム
準優勝　四貫島・望之門・育徳園 合同チーム

「より多くの子どもたちが参加できるように！」という願いから、昨年度に引き続き、土曜授業の影響が無い日曜日開催で『第31回ともだちドッジボール大会』を実施しました。

一年間を通じて合同行事の中で「施設の垣根を取っ払った出会い」が実践できるように、大地協の仲間施設がより繋がることができる工夫をしながら実施しました。今回のドッジボール大会では、1年生はこれまで通り施設対抗でしたが、2年生以上は各施設の数名ずつで合同のチームを作り、子ども同士で顔の繋がりができるような意図的な仕掛けを盛り込んでみました。

『このチームで出会った仲間と、来年も優勝を狙いたい！』
『育徳のおかげで優勝できた！超うれしい♪』
『やっぱり施設対抗の方がイイ！』
『違う施設の子といっぱい喋れて、友だちになったよ～。』
子どもたちの感想は様々でしたが、初めての試みで実施した2年生以上の全チームを施設合同という編成は間違いなく、子どもたちの繋がり作りに前進できた取り組みであったと感じています。

さあ、次年度は、どんな出会いが子どもたちを待っているのでしょうか。私たち指導員は子どもたちに寄り添い、つながりを支援しながら、地域の子どもたちの豊かな生活や成長を目指していきたいと考えています。

ともだちフェスティバル

～遊ぼう！知ろう！仲間を作ろう！～

文責：阿さひ保育園つくし会
大川　亜樹

【日程】２０１６年　１１月２０日(日)　９：００～１５：３０
【会場】都島中央公園グラウンド
【参加施設】１１施設
愛染橋児童館学童クラブ・阿さひ保育園つくし会・育徳園子どもの家・今池こどもの家・今川学園子どもの家・長居子どもの家・望之門学童クラブ・都島児童館・やまと保育園子どもの家・平和の子子どもの家・四貫島友隣館子どもの家

【参加人数】４１１人　（うち施設児童３００人）

【２学期の目標】色々な施設を知り、交流の輪を広める。

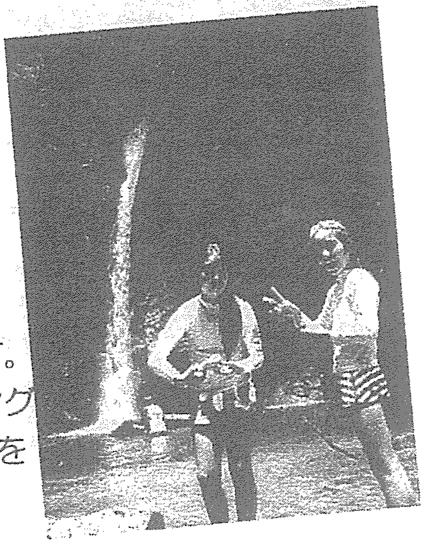
【ねらい】○他施設の子や指導員との交流を通じて、仲を深める。
○地域の方にも参加してもらい、楽しんでもらえる会にする。

今年度でともだちフェスティバルは２回目である。昨年度の反省と提案から「高学年も楽しめる、子どものニーズに合ったもの」「子ども達と一緒に作り上げていく」ことを大切にした。「どんな遊びがしたいか」各施設の子ども達にアンケートをとり、遊びの種類の大枠決めを行った。今年は運動系・工作系、ゲーム系のブースとなった。みんな個々に好きな遊び、やりたい遊び、やりたい店は違うので、施設内でどんなブースにするかとても迷うところでもあります。その分、施設の子ども独自の雰囲気(個性)“施設カラー”が見て分かるのも「交流」を目的とした合同行事ならではだと思う。各ブースでお店側とお客さんでのやりとりから、「こうすれば上手くできるよ」「おめでとうございます！」などの応援、おしゃべりをして「ともだちできたよ」と大人に嬉しそうに言う子どもの姿が見られた。午後から雨が降り、テントに避難する。雲行きを見て帰りの安全を考慮し早めに終了する。イベントや閉会式など臨機応変な時間調整が必要になった。天候によるものだけではなく、大会全体として時間の調節が必要ではないかと来年度への課題が残る。

ワークキャンプ

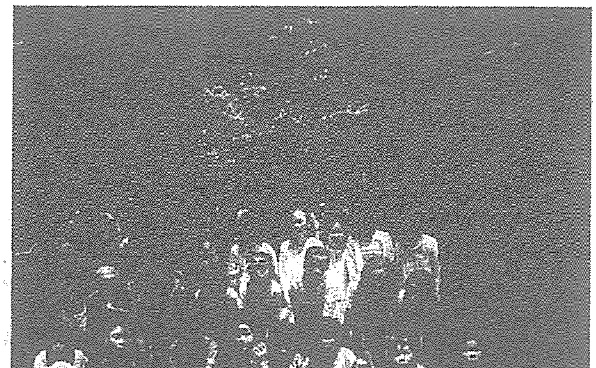
リバートレッキング

育徳園子どもの家
隈元　まひる



日程　7月3日（日）
場所　東吉野村　山の家
参加者　5施設
4・5・6年生　39名
中学生　4名
指導員等　9名　計52名

快晴の中、マイクロバス2台に分乗して山の家を目指す。現地では、前日からの雨の影響もあり、リバートレッキングではなく、40分ほど歩いて滝あそびをする。水の冷たさを感じながら、飛び込みをしたり、石を滑って滑り台の様にあそんだ。帰りのバスでは交通渋滞のため乗車時間が長くなったが、おやつを交換したり、しりとりをしたりと施設を越えた交流がみられた。

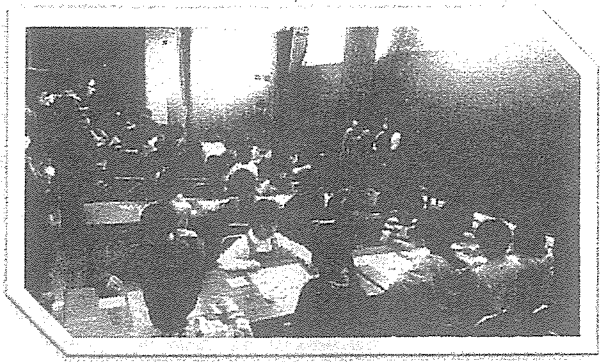


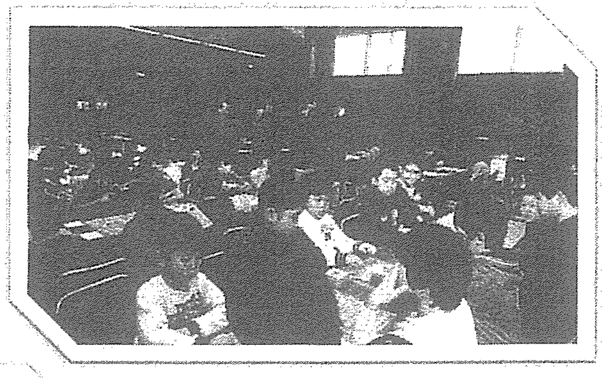
高学年やOB・OGを対象としたワークキャンプは、今年度この1回だけとなってしまった。中・高生が習い事やクラブ活動で忙しく過ごし、時間がないということも感じる。
しかし施設の集まりにはたくさん集まるのだが、ワークキャンプとなるとなかなか集まらないという施設の声もきかれる。

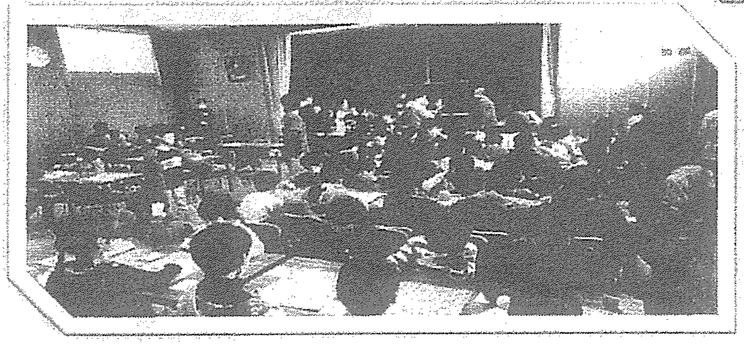
私たち指導員は、中高生となった子どもたちと関わる中で、どのような居場所・人間関係が彼らに必要なのか・求められているのかを考えていかなければならないのではないか。また、充実した生活をおくっている中高生がいる一方で、悩んだり、立ち止っている子たちもいると思われる。その子たちとどうのように繋がり、居場所を作っていくかアンテナをはっていかなければならない。

いろいろな施設・指導員・中高生がいる事を強みに、高学年・中高生・OGOBの居場所つくりを考えていきたい。

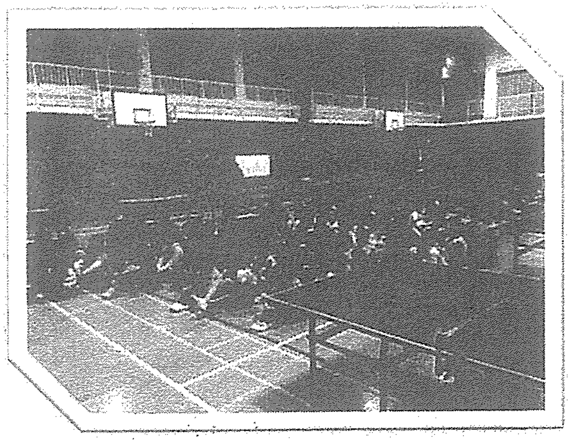
将棋交流会　２月４日（土）　早川記念ホールにて

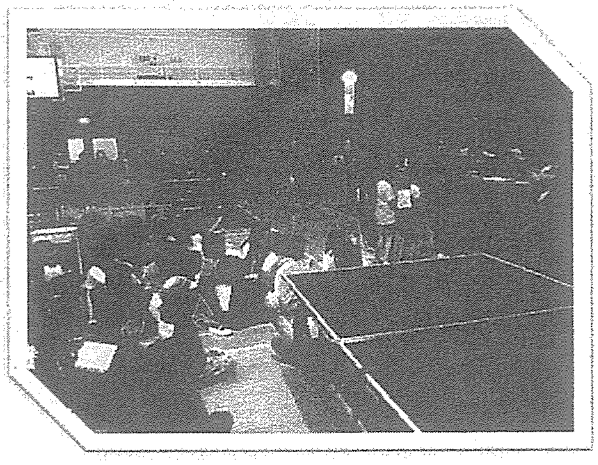


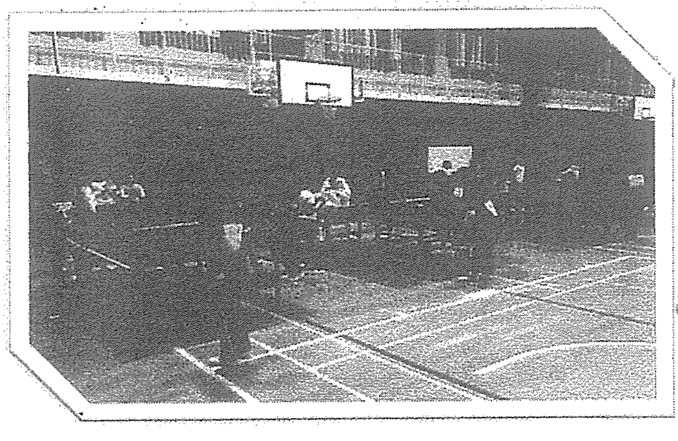


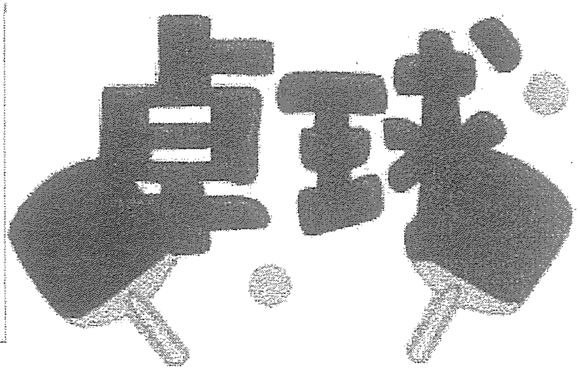


卓球大会　２月４日（土）　昭和中学校にて









合同遠足

年間を通じて子どもたちの交流の場を作ろうと、合同遠足を計画し、ともだちドッジボール大会で一緒にチームとなった施設同士ででかけた。

6月18日　二色浜

快晴で暑いくらいの気候となり、水着に着替えて海であそびました。ドッジボール大会で同じチームになった子同士が頭をぴょこんとさげて挨拶する様子がみられましたが、一緒にあそぶのは恥ずかしい様でした。他施設の指導員にはよく声を掛け、水をかけあったり、砂山をつくったりする中で、一緒にあそび始めていました。

阿さひつくし会
育徳園子どもの家
今池こどもの家

6月18日（土）　扇町公園

雲一つない快晴で、遠足日和だった。

初めはお互いを意識しながらも、照れくさく、なかなか声を掛け合えない子どもたち。少し時間が経つと、共通の遊びをきっかけに施設を越えて、ともに楽しみ、笑いあう姿が見られた。今回は、指導員が中心となり、遊びを引っ張ることが多かったが、今後回数を重ね、自然と子ども同士で誘い合える関係を築いていって欲しいと思う。

今川学園子どもの家
望之門学童クラブ
やまと保育園子どもの家

6月11日　浜寺公園

天候に恵まれて、暑いぐらいの一日となりました。公園での待ち合わせ、道中の子ども達は「〇〇おるかなー」「あの子来てたら遊びたい」等、わくわくしている様子でした。合流すると少し恥ずかしそうな子ども達。到着してあいさつを交わし、すぐに全員で鬼ごっこをすると施設の壁など関係なく楽しそうに遊んでいました。その後は野球やサッカー、遊具を使って遊んだりと交流を深めることができました。お弁当も一緒に食べる子もおり、良い交流の時間となったと思います。

愛染橋児童館
長居子どもの家

2～3施設の交流はお互いの顔が見え、あそびから繋がりができた。小規模の交流の場を作って行く良さを感じたが、1学期だけで終わってしまったため、どのように年間を通じて交流の場をつくっていくのかが課題である。

研修活動の報告

第一分科会

長居子どもの家　　大山　彬子

岐阜市が事業として行っている貧困対策事業の「ホームフレンド事業」「学習支援」の仕組み、またその事業の対象となっている子どもたちと実際に関わっている大学生による実践報告がメインの分科会であった。

その中でも印象に残っているのは「学習支援」についてであった。主な対象になっている子どもたちには、ひとり親家庭の子どもが多く離別による環境の変化や親自身が学習をする事の意義を見出せないでいる。その親の姿を見て育っている子どもにも「学習をする」と言う意識が薄い。そんな子どもたちにもっと「学習の意義」を持てるためにあるのが、この「学習支援事業」である。実際に子どもたちに勉強を教えているのは登録している大学生で、子どもと近い存在である。教える側の学生は、対象となる家庭に出向く。「学習支援」はただ、勉強を教えるだけではなく、その学生が入ることにより対象の子どもだけではなく、保護者やきょうだいなどその家族の状況も見ることができる。それにより、虐待などの問題点を早期発見し、行政と連携を取り対策を考えることができる。という利点もあるそうだ。

まず、「学習支援」を子どもと近い学生が担当していることにより、子どもの本音を引き出せたり、また、学生が訪問している間も保護者自身、気を張らずに日常を送ることができる点に関しては、より、その対象の家族の「貧困の原因」を見ることができ、その家族が本当に必要とすることに対して、早く対応できるのだと思った。私たち指導員は学校の先生でもなく、学生でもない。この岐阜市の事業の内容、考えとは離れてしまうのかもしれないが、直接子どもたちと、その保護者の方と関わる者として、いつでも子どもたちにとって本音を言える。保護者にとっては子どもについての悩みを相談しやすい存在であるべきであると改めて考えた分科会であった。

第二分科会

やまと保育園子どもの家
山口理沙

私は、今年初めて子どもの家の指導員になりました。４月から子どもと一緒に過ごす中で、あまり遊びを知らないことに気付きました。今の子どもたちは、家に帰るとゲームをして遊ぶことが多く、外で遊ぶことが少ないため、ゲーム以外の遊びを楽しむ機会が減っていると思いました。『子どもの貧困』というテーマを見たときに、“遊びの貧困”についても様々な施設の方と意見交換をしたいと思い参加しました。

第二分科会では、子どもの貧困のイメージをポストイットに書き、出し合いました。そこでは、「時間に余裕がない」「愛情表現」「遊びの貧困」「コミュニケーション不足」「語彙の乏しさ」等、様々な地域・職種の方の意見を聞くことが出来ました。

その中でも印象的だった言葉は、やはり『遊びの貧困』という言葉でした。実際に日々の生活を見ていると、玩具で遊んでいても、遊びに集中することが出来ない子どもが増えているように感じていたからです。そのような子どもたちに共通するのは、親が仕事や家事に追われ、子どもと一緒に関わる時間が減りつつあるのか、ゲーム機を買い与え一人で遊べるようにしている家庭が多いように思われます。ゲーム機以外の遊びをしなくなり、遊びの経験不足から自身で考えて遊ぶことができず、ゲーム機がない学童に来ると、「ひま！」という子どもがでてきています。

指導員は、その子どもに合わせて遊びを提供・提案し、自ら遊びを考えられるように配慮していく必要があると思いました。

短い時間でしたが、他施設の方と意見交換をすることで自施設では見えてこない問題や悩みを聞くことができ、貴重な時間となりました。

その中で『遊びの貧困』は、自施設だけの問題ではなく、他施設でも起こっていることが分かりました。「ひま」と言う子どもを減らしていくには、遊びの提供・遊びの素材集めが大切だと教えていただきました。まずは、子どもたちと少しでも多くの時間を使って共に遊び、少人数でも楽しめる遊びや大人数だからこそ楽しめる遊びなど、様々な遊びを子どもたちに伝えていきたいと思います。そして、保護者の方にも少しでも子どもと一緒に遊ぶ時間を作って貰えるように伝えていくことで、「愛情不足」「コミュニケーション不足」

の解消にも努めていきたいと思います。

第3分科会

今川学園子どもの家
浅井　あすか

私は、初めてこのような大きな研修「児童部会」に参加させて頂きたくさんの方々との意見交換や交流を楽しみにしていた反面、緊張感で胸がいっぱいでした。私の参加した分科会は第３分科会で障がいのある子どもたちとの関わりから見える子どもの貧困というテーマで「Hくんのケース」を通してどのように支援していけば良いのかをみんなで話し合い、意見交換をしました。

意見交換の中で、家族がかかえる問題やそれぞれの施設がかかえる問題、制度の問題についての話し合いに発展し色々な諸問題に対し制度が追いついていないのを知る。

制度の前にそれぞれの支援員の意識の持ち方やチームワークが大事。きっかけ作りやそのプロセスが必要であり、今後の子どもたちの成長を見守り継続した支援が大切であるという事を学びました。

私にとって児童部会に参加できて、色々な方々と交流や意見交換ができた事ですごく刺激を受けました。個々の指導員の困りごとへの関わり、支援の仕方を通して自分自身の学びや勉強に繋げていきたいと思いました。今後も指導員として子どもたちに寄り添いながら、子どもと共に成長していきたいと思います。

2016年度　情報交換について

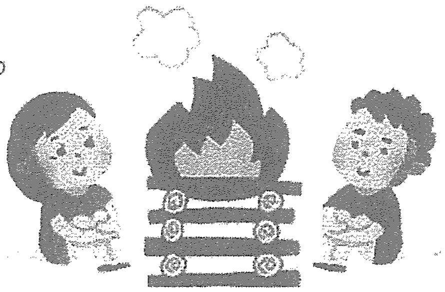
○担当：岡原　武（愛染橋児童館）

○施設長のお話しについて

・各施設の歴史や理念、大地協・地域の子ども研究会への思いやスタッフへ望まれることなどを聞き、研究会、各施設で共有することを目的に実施した。

・この時間を作ることで、各施設の歴史や理念がわかったり、大地協が大切にしていることへの理解が一歩進んだように感じる。貴重な時間を頂いた。今後もこのようなお話しを聞きながら、視野を広げていきたい。

○情報交換の時間について



情報交換チームを作り、その中で次回の情報交換のテーマを決めた。チームは地域の子ども研究会に初めて参加する人で構成された。テーマを決める過程で、話し合いがしやすいように、テーマを詳しくして事前に伝えた。話し合いをしやすい反面、経験が少ないメンバーが多く、話し合いをどのように充実させるかなど反省があった。

１０回の情報交換の中で、新たな情報を生かして、施設の職員と共有したり、子どもの活動へ返したりすることは出来ただろうか？情報を聞いただけになっていなかっただろうか？

ふりかえりの中で、情報交換は、わからなかったら聞く、困っていることがあれば相談してみるなど、一人ひとりが意識を持って、主体的に情報交換をしていくこと。情報交換の時間だけ、情報を交換するのではなく、情報は自分から掴み取っていくものであるということを意識していこうとなった。

○2016年度情報交換　実施内容。

実施日	内容	場所
6月10日	キャンプの取り組み	やまと保育園子どもの家
7月　8日	夏休みの過ごし方	都島児童館
7月15日	宿題の取り組み方	平和の子子どもの家
9月　9日	集団の作り方	四貫島友隣館子どもの家
9月23日	保護者対応	望之門学童クラブ
10月7日	高学年との関わり	阿さひ保育園つくし会
10月21日	地域との関わり	やまと保育園子どもの家
10月28日	ケース検討（困っている事）	今池こどもの家
11月11日	保育園との連携	長居子どもの家
11月18日	ケース検討	都島児童館

指導員

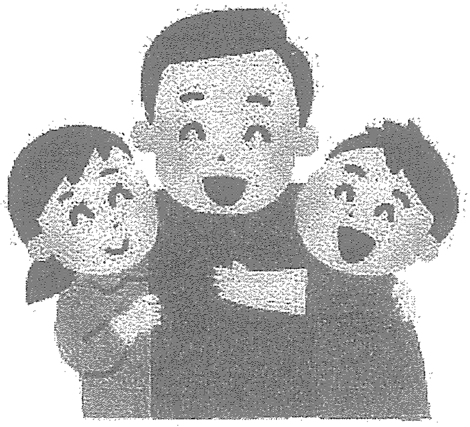
振り返り！

『地域の子どものたちの豊かな生活・成長を目指す
～子どもの成長、それは積み重ねた経験から生み出される～』

今池こどもの家　　多賀井 潤一郎

『今年は無理やと思ってたけど、ちょうど部活が休みになったから、お手伝いに行けるで～！』ともだちフェスティバルの3日前、中学１年生のN君が息を切らして今池にやって来た。小学生時代に大地協行事を通じて出会った他施設の仲間やスタッフの人たちに育てていただいた彼は、ＯＢスタッフとして小学生中心の行事にも主体的に参加してくれている。ともだちフェスティバルが近づくと、低学年の子どもたちと一緒に自施設のブース準備を進めてくれていた。

『去年は俺、ストラックアウト屋さんのリーダーやってん。めっちゃ一杯お客さん来て困ってたらな～、阿さひの子が5人も手伝いに来てくれてんで～。あれ、ホンマ助かったわ～。ほんで、一気に友達が増えてん。名前は忘れたけど顔は覚えてるで～。』
と、今年初めて参加するの１年生のAちゃんに話していた。N君は説明をすることが得意な方ではないが、その口調からはともだちフェスティバルの魅力や楽しい雰囲気が十分に伝わっていた。施設内のやり取りの一場面であるが、それは大地協が大切にしてきた「受け継がれる伝統」を感じ取ることができる光景であった。



それと同時に、N君がこんなに一生懸命、伝えようとしている姿を見ながら、私は１年前の行事が有意義であった事を実感した。
次の日、Aちゃんは
『お店屋さんでリーダーやりたい。』
と、目を輝かして周囲にアピールしていた。

私たち地域福祉施設職員の仕事は、来所人数や開所日数といった数字からは読み取ることができない重要な個別支援や、直ぐには答えの出ない地道な支援が沢山ある。言い方を変えれば、自分の関わりや支援が正しいのか間違っているのかがその時は分からず、でも無我夢中で向き合い、とてももどかしい毎日が続くようなものである。数年前には感じ得なかったN君の心の育ちとコミュニケーション能力の成長が今、手応えとして時間差でやってきた。

２０１７年春、目の前の子どもと向き合い、未来に繋ぐ個々の育ちを見つめる中で、より良い経験が積み重ねられるような関わりを大切にしていくため、日々研鑽し私自身も更なる進化を続けていきたい。

はじめて研究会に参加して

今川学園子どもの家
浅井　あすか

私は、今年初めて「地域の子ども研究会」に参加させて頂きました。

学童指導員としては１年目で他施設の人との出会いや環境の変化で、私の中で不安や戸惑いがありました。研究会に参加していく中でどんどん不安や戸惑いも解消され先輩の方々に支えられて一年を終える事ができました。

施設内とは違い色々な施設が集まっての会議は、すごく刺激をうけました。

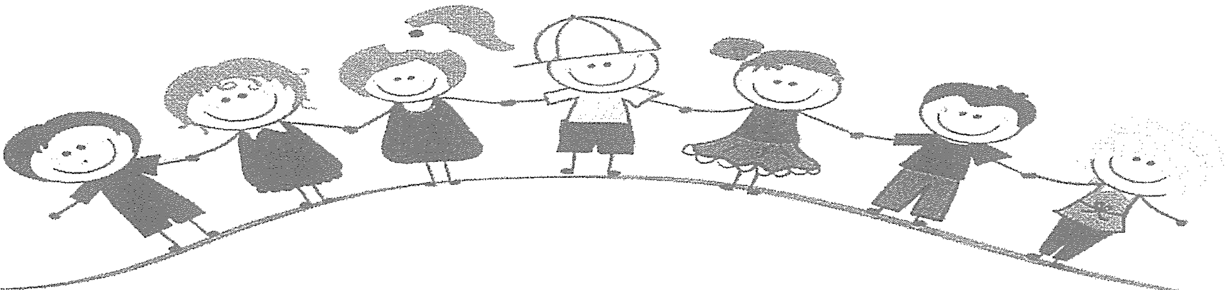
一つの行事に関しても、色々な事が会議の中でたくさん話し合われ次々に決まっていく事にも驚きました。そんな中で、何か一つは会議の場で発言するという事から始めてみようと思いました。今年の子どもたちの目標と同じで１他施設の人と出会い、知る２学期は色々な施設を知り、交流の輪を広げる３学期には仲間と思える関係づくりで、私にとって子どもたちと同じ目標を持つ事を意識して参加させて頂きました。

今年の研究会での大きなテーマは、「地域の子どもたちの豊かな生活、成長を目指す」ということでしたが、私なりに考えてみました。

この「地域の子どもたちの豊さ」という事を考えた時に、公園で子どもたちとあそんだ時の場面が思い浮かびました。

公園であそんでいる友だちを見つけ一緒にあそぼうとする姿がみられましたが「あそびたいけど…どう誘えばいい…？」地域の子があそんでいる様子を遠目に見ているだけで、アプローチのかけ方がわからないようで、指導員に困っていると伝えて来た子がいました。初めは見守り様子を見ていましたが、子どもたちにアプローチのかけ方（きっかけ）を伝えてみました。すると「なにしてんの？」とコミュニケーションをとりはじめました。その後は自分たちでルールを決め、公園にいた他の子も誘ってあそびを展開する姿が見られるようになりました。私は子どもたちのその姿を見て、はじめのちょっとしたきっかけがあると子どもたちは繋がり合えるんだと改めて感じました。

これからは、「子どもの家」だけの過ごしだけではなく、地域での交流や子ども同士の繋がりを大切にして、その中から自発的、意欲的に活動に取組めるように色々なきっかけを作っていき、自分に自信が持てるような経験をたくさん子どもたちができるような支援をこれからもおこなってきたいと思っています。



２０１６年度を振り返って

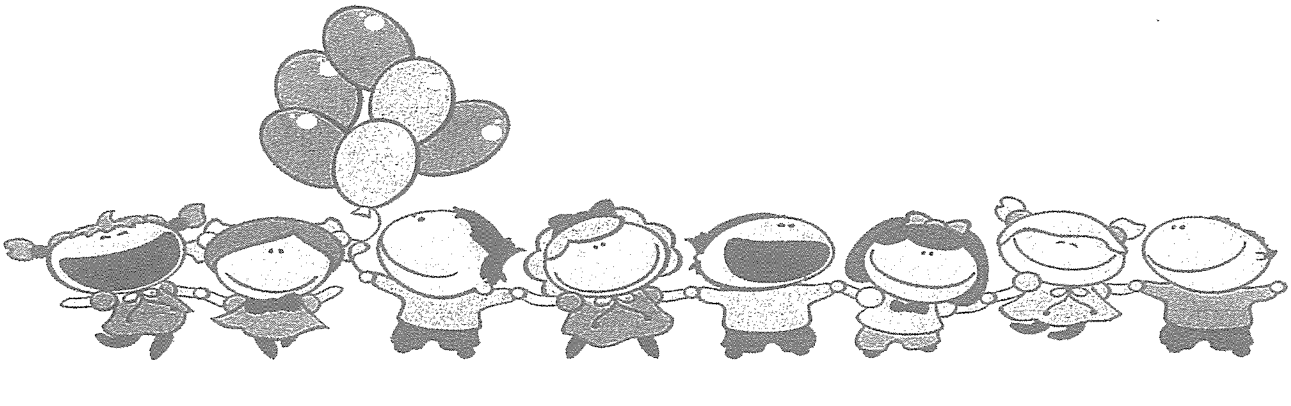
アフタースクールKIDSかわぐち

根本　栄輝

今年度から地域の子ども研究会に参加させていただいています。私は休日に小学生のサッカーのコーチをしていて小学生と関わる機会が比較的に多い方だと思うのですが、スポーツの指導とは違い、放課後児童クラブでは、どのようにして子どもと接し、どのような遊びや活動を進めていけばいいか、とても不安でした。

しかし、毎回の研究会の中で「地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す」と言う大きなテーマに沿っての話し合いや、自分が不安に思っていること、疑問に思っていることを他施設の先生方に質問し、教えていただき、学ぶことができました。また、研究会でいろいろな方と出会い、自分にとってとても内容の濃い１年になったと思います。

今年自分は支援員１年目です。とても多く悩むことがありました。子どもの事で悩み、保護者対応で悩み、運営面でも悩み、とにかく悩みが尽きない１年でした。その度に早く逃げ出したいと思っていました。しかし、研究会に参加して、経験の長い先生方の話を聞いていく中で、どんな先生でも初めは通る道だということを知り、少し気が楽になったような気がします。また、なぜ頑張れてきたかと考えたところ、第一に子ども達がいたからだと思いました。子ども達の笑顔や笑い声を見たり、聞いたりするだけで、なぜだか頑張ろうと思うことができました。子ども達からたくさんの元気と頑張ろうと思える力をもらいました。次は自分が子ども達に元気を与えてあげたいという気持ちになりました。来年度は、自分も２年目になるので、今年度以上に、少しでも多く子ども達にもらったものを還元していけるように努力していきたいと考えています。そして、研究会でも積極的に発言をしていき、子どもへの理解を深め、テーマである「地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す」という目標に向かって努力をしていきたいです。



２０１６年度を振り返って

長居子どもの家　大山彬子

２０１６年度がもうすぐ過ぎ去ろうとし、１年生を迎えたのがついこの間のように感じる。２０１６年度から、これまで行われていた大地協主催の4大行事が「ともだちドッジボール大会」「ともだちフェスティバル」の２大行事になった。子どもたちからは「みんなとけん玉したかったな」という声も聞かれた。「いきいき」ではなく、大地協に加盟している自施設を選び、これまでの大地協の行事を知っている保護者の方に関しては「少し寂しいですね」とおっしゃっていたが、これからの大地協のこと、これからの子どもたちのことをお話しすることでご理解をいただけた。そして、授業内容がより濃くなり、学校以外での習い事の数の多さ、家庭環境の変化等子どもたちを取り巻く環境の変化を考えると２大行事にする事で、自施設に関してはひとつひとつの行事にじっくりと取り組む事ができた。だが、行事を減らし、施設間の交流をもっと密に行う。という事に関しては薄くなってしまったのは反省である。１４施設の学童クラブがあり、子どもたちにとっては「自分たちが住む地域以外に、１３ヶ所もの地域を知り、子どもたちの世界を広げられるチャンス」がすぐそこにあるのに、私自身、活かしきれていない１年間であった。このチャンスは「大地協」にいるからこそ貰えるものだと思う。そのせっかく貰えたチャンスを活かすには、様々な「大切なこと」があると思う。指導員自身が他の施設、地域を知りその魅力を子ども達に伝える事も「大切なこと」の一つではないかと考える。２０１６年度は研究会内の時間で各施設の施設長の先生方に、施設の理念や特徴、大地協への思いをお聴きできた。お話をお聴きして、それぞれの地域、施設についてまだまだ知らない世界があった。先人の方々の偉大さを改めて感じた。もちろん、福祉施設のいち職員である私が、先人の方々のように出来るわけもなく・・・では、そのいち職員である私ができることは何だろうと振り返った時に、やはり一番に思い浮かぶのが身近にいる子どもたちの姿だ。そして、前にも記したように、大地協ならではの「チャンス」を掴める様に子どもたちと関わることをもっと意識しながら日々、過ごしていきたいと思った１年間であった。

一年間を振り返って

長居子どもの家　川畑　亮輔

今年度の研究会では、年間を通して子ども達の行事などの活動に「交流」という目標を立てて、活動してきました。

最初の大きな行事としてドッジボール大会がありました。研究会のメンバーと議論を繰り返し、今年度は施設対抗ではなく全チーム合同チームで行いました。子ども達の反応は様々で、「えー！！施設だけでいいやん！」「何で他の施設と一緒にしやなあかんのー！？」という反対意見もあれば、「色々な子と同じチームでするの楽しみ！」「仲良くできるかなー？」という意見もありました。どの意見も素直な気持ちなのだろうなと。と思いながら、練習してきました。

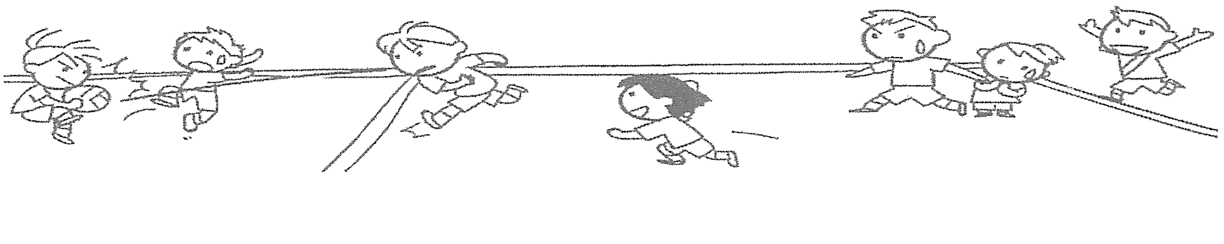
練習中も「どうせ合同やし、、、」とつぶやく子もいれば、「俺が頑張らな！」と意気込む子もいて、大会までの過程でも様々な子どもの気持ちがある事を感じました。どうなるのだろうと思いながらも子ども達の気持ちに寄り添い、大会当日を迎えました。

チームの初顔合わせでは、子ども達は緊張しながらも作戦会議を済ませ試合に臨みました。

大人の不安とは裏腹に、試合が進むにつれて仲良くなっていくのが手に取るようにわかり、昼食の時には「○○施設の○○って子がなー！」等の話が出ていました。大会が終わってからも他の施設の子どもの名前が出たり、「楽しかったー！」という声を聞くことができ、大人が思っているよりも子ども達は交流ができているのだと感じる事ができました。

翌月にはドッジボール大会で合同チームだった施設の子ども達と合同遠足に行きました。合流するなり、「おー！」とうれしそうに遊ぶ子ども達の姿を見ると、ドッジボール大会での交流がとてもいいものであったと思いました。

年間を通して、子ども達がどのように交流できるかを考え活動してきた１年間を振り返ると、子ども達は与えられた環境や活動を柔軟に受け止め、成長して行くものなのだと改めて気付くことができました。だからこそ私たち大人が作る環境や活動が子ども達に多くの影響を与えるものであり、子ども達が成長して行く過程で、とても重要なのだと思います。今年１年間だけではまだまだ至らなかった所もあるのでこれからも継続して「交流」から生まれる子ども達の豊かな生活・成長を目指して、環境や活動を作って行きたいと思います。



2016年度を振り返って

望之門学童クラブ
大西　奈々子

先日「法人内（保育園）における私の役割」というテーマで文章を書きました。その中で一部「法人内における学童指導員の役割」という視点でも考え、自身を振り返る良い機会となりました。

学童指導員という担当上、学校の授業参観や学校の先生と話す機会も多々あります。今までは学童に来ている子やその子を中心とした交友関係に重点を置いて情報を見聞きしていましたが、それではいけないのではないか？保育園の職員として学校に出入りしていく中で、在園中の姿も知る事が出来、園を卒園した子どもたちの卒園後の姿をキャッチしやすい職種上、学童に通っていない子どもたちの姿や変化に気付け、園へ持ち帰り共有していく橋渡しのような役割を担う必要があるのではないかと感じています。

在園中に気になるケースとしてあがっていなかった子ども・家庭でも、卒園後家庭環境が急に変わる子もいるでしょうし、子どもたち自身の心の変化も訪れる時期があるはずです。

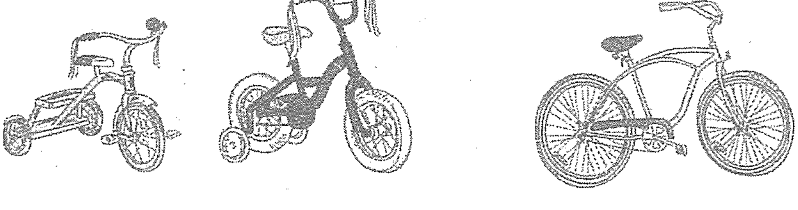
子どもたちが保育園を卒園した事でその子たちを見守る大人が減り、そこでの今までの関係が途切れるのではなく、いつでも子どもたちが・保護者の方々が悩んだ時に足を運んでくれるよう、保育園と同じ法人内にある学童職員として出来る事、発信していく事がまだまだあるのではないかと思います。

またそれらは勤める法人に関わりのあった子どもだけに留まってはいけないとも思います。地域で過ごす子どもたちが健やかに充実した生活が送れるよう、成長を見守るために学童職員が出来る事は何なのか。それは地域の子ども研究会のテーマ“地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す”と同じ願いです。

地域の子どもたちをどう見守っていくか？全てに目を光らせ把握するという事ではないと思います。危険な場所や事象を子どもたち自身が経験の中で習得し、子どもたち自身が地域に根付き、友だちや地域に住む方と繋がっていく事が必要かと思います。

その為に、施設や職員が子どもたちと繋がる事・繋がるきっかけ（機会）を持つ事だと考えます。そして子どもたちの成長した先を見据えて、職員ががっちり沢山の子どもと繋がるのではなく、子どもたち同士が繋がる事、子どもたちが周りの友達や人の変化に気付くこと、変化を気付いた時に声を掛け周りにＳＯＳを発信できる事、そうした感性や行動が出来るよう“今”どういった支援が出来るか、どのような経験を積み重ねるかを考えていきたいと思います。

長いようであっという間の小学校生活６年間、その前の乳幼児期と、先の中高生・大人へと成長していく子どもたちを身近にいる大人として関わる中で自身を律しながら、共に繋がっていきたいと思います。



一年間を振り返って

都島児童館
植木尚嗣

今年度から参加した「地域の子ども研究会」を振り返り感じたこと。
昨年度から都島児童館は５施設となり現在の登録児童数は約１３０名である。
さらに、約５０名の入所児童が決定しており来年度は約２００名近くの登録児童数となり都島児童館は６施設に増設予定である。

自分が思ったこと、各行事に参加する度に大人数での引率が必要とされ、現場到着後も子どもへの安全の配慮を考え過ぎてしまい職員一同気が抜けない状態と、リスクだけしか見えておらず、自分自身その行事を全く楽しめていなかったというところが研究会担当支援員として今年一番の反省である。
今年度研究会では「交流」を軸としてきたが、都島児童館として研究会全体として思い描いていたような「交流」ができていたのか・・・。

しかし、研究会では情報交換や研究活動のテーマに沿ってそれぞれが意見を出し合うなど話し合いの機会が多く増えたことで、それぞれの考え方、施設の色、施設長の言葉、地域柄など、やはり自施設だけでは見えてこない多くの部分を知ることができた。
また、行事に向けて他施設と協力し合い、役割を分担しながら準備を進めることで職員同士、施設同士の「交流」も図れたことは改めて都島にとって自分にとっても大きな収穫であった。

そして、「ともだちフェスティバル」では、都島開催ということもあり、
当法人内の保育園と連携を取りながら地域への呼びかけも行い、たくさんの人の参加と協力があった。課題は残るものの子どもと保護者又は、地域までと多く方からの評価が得られ全体を巻き込んだ良い経験と「交流」ができたと思う。

それぞれが納得のいく「交流」や「仲間」という言葉が浸透するには、まだまだ時間が掛かるかもしれないが、この一年で研究会から学んだことを活かし、まず子ども一人ひとりを第一に考えながら、今以上たくさんの「交流」が図れるよう努めていきたい。

阿さひ保育園つくし会
吉野　裕志

2016年振り返り

今年は相方が研究会を参加しているという事もあり、運営側ではなく引率職員として各行事に参加した。学童に来て、研究会に参加して、初めてだ。

まずはドッジボール大会。来てすぐに事情があり帰る事となる。園長に電話して代わりの先生がすぐに来てくれた。自分が長居小学校に滞在していたのは１時間もない・・・。

ともだちフェスティバル。雨のため午前のみ。今度はみんなが一緒だけど、また早く帰るのか・・・と思っていると、帰りの電車で、乗っていた電車がまさかの人身事故。片道３０分のはずが１時間以上もかかる。

今年はドッジボール大会を施設混合で実施し、昨年から運動会という形が変わったともだちフェスティバル。いつもと違う事をすると、色々な問題が発生する。それを研究会みんなで話し合い、相談して、みんなで乗り越えていく。そうやって、全体行事に取り組んでいった。
自分は引率職員として当日参加する。これも自分にとってはいつもと違う事だった。困ったら色々な人に相談しよう、そう思っていたが、行事参加において、ここまで予想外の事がおこるのはさすがに呪いかなにかと疑いたくなる。学童に来て、今までずっと引率をしたことがなく、少しわくわくして準備をして、いざ行くとこんな感じだ。
今年が呪われているのか、引率をした事が呪われているのかわからない。運が悪かっただけ？そうやったとしても二度と引率なんかしねぇからな！？ってぐらい拗ねたくなる。
そんな感じなので今年の振り返りは？と聞かれると、行事においては「運が悪かった」としか言いようがない。

研究会では、参加施設も増えて人数も増えた。毎年入れ替わりもあるが、その年その年のメンバーで色々な相談をして、一緒に進んでいけば・・・と思う。

1年間を振り返って

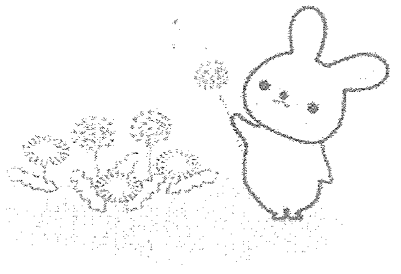
育徳園子どもの家　隈元まひる

6年生が今年も中学生となり、学童を巣立っていきました。今年度の6年生は乳幼児から担任となり縁のあった子どもたちでした。高学年になってからは、保護者の幼児期や低学年時の思いや悩みを知り、自分の対応を振り返り反省し、時間が経ってからですが話をできたことがうれしく感謝しました。子どもたちに小さかった頃のことを尋ねられることもありました。ひとりが言い出すと次々と「私は？」「俺は？」と聞いて、高学年になるとなかなか見せてくれないかわいい顔が見られました。低学年の子がケンカして泣き止めない時、小さかった頃 20～30 分は泣き続けていた6年生の女の子に当時の事を尋ねると、思い出しながらその時思っていたことを話してくれました。それを一緒に聞いていた1,2年生にとっても、憧れの 6 年生の話は興味津々のようでした。

毎年のことですが、いろいろな保護者や子どもたちの思いを知りました。改めて、どのように成長し大きくなっていくのか、先を見ながら保育することの大切さと難しさを感じる 1 年でした。巣立った彼らがどんな中高生、そして大人になるのか楽しみです。

研究・研修活動を通じて、小学校教諭の保護者と話す機会がたくさんありました。小さいころから一緒に育った結びつきは、小学校高学年になっても続いているというお話が印象的でした。少しずつ行動範囲が広がり、地域へ出ていく子どもたちが、結びつきを基盤にしながら、そこに新しい仲間が入り、地域へと広がっていってほしいです。

地域の子ども研究会では施設長のお話を聞く機会をいただき、施設の成り立ち・地域性・取り組んでいることなど初めて伺うことも多くありました。地域のニーズから始まった保育や学童が今は何を求められているのか、研究会の中でお互いに考えていきたいと思います。また地域の中の福祉施設として、何かあれば、何もなくても帰ってこられるに場所に更になっていくことができるように、あそこに行ったらと思ってもらえるようになるためにどのような場所づくりをして、それを発信していくのかこれから学びを広げ、実践に移していきたいと思います。

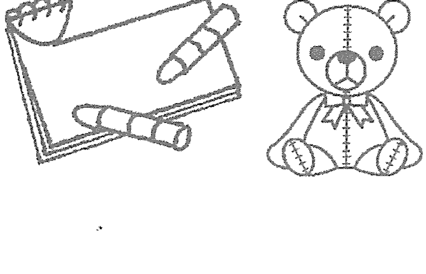


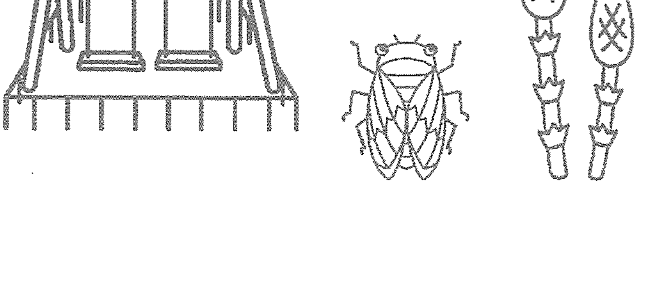
自身を振り返って

阿さひ保育園つくし会
大川　亜樹

学童指導員を担当して3年半が経ちました。様々なきっかけがありそこから子ども達との生活がスタートしました。大地協の行事、保育園の行事、日々の子どもとの遊びや行事に向けての練習など、色々な出来事を通して私と子ども一人一人との関係が出来上がっていきました。人間関係の築き方(過程)には正しい答えなんてものなく私の中で‘子どもへの関わり’が全てだった時もあり、毎日夜子どもの言動を思い出し自身の言動を振り返っていました。「明日は今日よりも良い日に」という思いもありました。ある時から「子どもにとってどういう存在でありたいか？」と自問自答を繰り返しているうちに「みんなの本音を知りたい」「素直な気持ちを理解したい、肯定したい」という思いが芽生えてきました。欲をかいて「何でも言える人」になりたかったのかもしれません。しかし、指導員という立場上色々な意味で「それは間違っている」と指摘も必要で、また一人一人求めているものも違います。私の中で葛藤があった部分でもありました。個人として、指導員として間違いを沢山しながら私なりに向き合ってきました。３年半の間で自身で経験して得た向き合い方が出来たこと自体が、私自身の成長になったと思います。子どもの気持ちを理解し、共感する。気休めの言葉も必要だが先を見据えた言葉掛けもしっかりとしていきたい。
　文頭に、様々なきっかけからスタートと書きましたが、生きていく中で様々なきっかけに出会うと思います。好きなことはいいきっかけに、苦手なことだと壁に感じるでしょう。失敗しながら経験を重ね学んでいくことは豊かさと成長と自信に繋がると思います。
　さて、「子どもが安心できる居場所をつくる」ことが学童指導員の仕事ですが、子ども達はどうでしょうか？中学生が何人も手伝いや遊びに来てくれます。これから何人が帰ってきてくれるのでしょうか？数年後、「ここでいろんなことして遊んだな。懐かしいな。」と思ってくれるだけでも嬉しいです。

最後になりましたが、学童指導員の役割は思っていた以上に大変でしたが、上司や研究会の先生方からのアドバイスはとても現実的で、同じ悩みだと安堵し、何度も救われました。ありがとうございました。





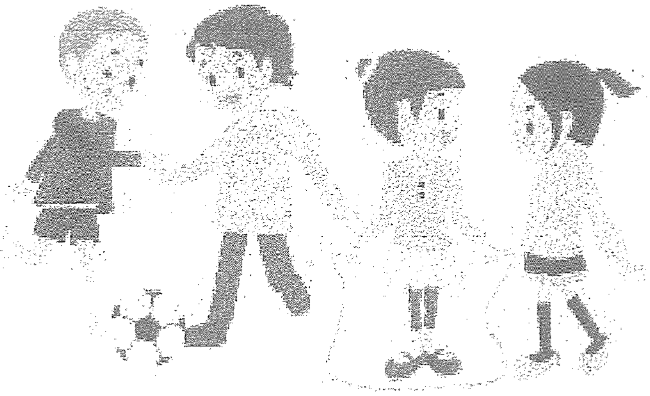
愛染橋児童館学童クラブ
岡原　武

「地域の子どもたちの豊かな成長を目指す」

学童の指導員（放課後児童支援員）になって、4年目を終えようとしている。今年度、初めて地域の子ども研究会のメンバーになった。一年間を終えて、改めて、「子どもたちの豊かな成長」について考えてみる。現在の子どもたちの状況、環境はどのようになっているだろうか？
現在の愛染橋児童館の周辺の地域を考えてみると、遊ぶ環境というところでは、子どもたちから「あそこの公園に行っても、ボール遊びができないから、面白くない」という声が聞かれたり、「あそこは遊ぶのが禁止になっているって、学校で言われたやろー」という声が聞こえたり、子どもたちの遊びの幅や遊び場の制限が多くなっている。
また、この地域では、人数が少ない学校があり、学校の統廃合の課題があった。来年度から３校が閉校になり、中学校と統合されて、新しい小中一貫校となる。4月から大きく変わる環境に子どもたちの何らかの影響があるだろう。
学童内に目を向けると、学童保育のニーズが高まり、低学年中心に定員いっぱいの登録の児童がいる。また、高学年はスマホを持ち、友だちや親との連絡手段にSNSを使い、友だちと連絡を取り合っている姿が見られる。また、スマートフォンのゲームやYouTubeのことが子どもの会話の中でよく聞かれるようになっている。

このような変化の中で、今年度の児童部会では、「子どもの貧困」がテーマとなった。その話し合いの中で、現場の職員が「貧困」というキーワードで考えると、現在の子どもたちの状況の中に、経済的な貧困だけでなく、食の貧困、時間の貧困、遊びの貧困、愛情の貧困、コミュニケーションの貧困など、多くの貧困が見えてきた。また、児童部会の基調講演で言われいたように児童福祉法の改正があり、子どもを取り巻く法律も変化していることに目を向けていないといけないと思う。

学童保育の現場では、個性豊かな子どもたちが集まっている。上記のような子どもを取り巻く環境の変化の中で、子どもの主体性を大切にし、自己実現、自己発揮ができるようにしていきたいが、現実は課題が山積している。子どもの権利を守っていくのが、学童指導員（放課後児童支援員）の役割だと思う。そして、それが守られるように声を上げていかなくてはならないと感じる。



地域の子ども研究会に参加して

～人とつながること～

平和の子子どもの家
岡村　慎一

私が地域の子ども研究会に初めて参加させて頂いたのは３年前。他施設の指導員たちの中で緊張していたのを覚えています。回を重ねていく度に少しずつ打ち解け、自分の意見や思いを伝えるゆとりも生まれ、お互いの持つ情報を交換、研究活動、行事へ向けての話し合い等を経て多くを学び、実りのある１年を過ごさせて頂きました。

保育現場に戻ってから２年が経ち、久しぶりに研究会に帰ってきました。「久しぶりですね」と言葉を交わす指導員と、「はじめまして」と挨拶する指導員。私は一年のおおよその流れを把握しているので、初めて研究会に参加した時よりも緊張は少なく、すぐに馴染むことが出来ました。初めて参加する指導員は表情が固く、緊張しているのが伝わってきました。

今年度の主な行事はドッジボール大会、友だちフェスティバルです。年間を通してのテーマは“交流”でした。参加した子どもたちは自分の施設の子と過ごしながらも、他施設の子どもの名前を憶えていたり、一緒に遊んだりする姿も見られました。そんな時にふと研究会で過ごしている指導員同士の世界と重ねあわせました。最初は緊張するよな～。けど、一緒に遊んだり、合同チームでドッジボールしたり、少し話すだけでも友だちになれる。子どもたちも自分たちの施設や学校だけでなく他施設の子どもたちと触れ合い、交流することでまた新しい世界、新しい自分を知るのではないかと思います。そういった機会、環境を作ることは大切だと感じました。

研究会のテーマは、“地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す”です。私はここに掲げられているキーワード“地域”“豊か”をどう捉え、子どもたちにどう返していくかが課題だと思っています。他施設と関わることで見えてくる新しい世界があることを研究会に参加することで自分自身が感じた様に、子どもたちにも人との“つながり”が大切であることを感じました。

人と人との出会いやつながりの中に、“地域”や“豊かさ”が見えてくるのではないかと思っています。

地域の子ども研究会に参加して

やまと保育園子どもの家
角中　恒介

地域の子ども研究会に参加するようになって９年が経ち、改めてこれまでの地域の子ども研究会での時間を振り返りました。

当初は、施設を代表して参加するプレシャーやわからないことが多い中で参加するという緊張から、毎週開催される研究会は本当に憂鬱な時間でした。会議中に飛び交う知らない言葉を聞き逃さないよう、必死にメモを取り、施設に戻ってからその意味を調べて、やっとその日の会議の内容が理解できたということも多々ありました。しかし、今となってはそんなこともいい思い出で、これまで続けてきたからこそ得られたものも沢山ありました。

その中でも一番の収穫は、人との出会いでした。歴代の研究会のメンバーはもちろん、各施設の研究会には参加していない支援員や子どもたち、施設長の先生方、行事の運営を手伝ってくださる各施設の保育士の方、また大地協以外でも、児童部会や全国研修会など研修の機会には全国の様々な地域や施設、立場を越えて、たくさんの方と出会うことができました。そして、出会った人との関わり中で、自分の気づいていなかったことに気づくきっかけをもらい、考え、知らなかったことを学ぶことで、私は少しずつ前に進んできました。一つ一つの出会いからたくさんの刺激をもらい、初めは憂鬱だった研究会にいつの間にか楽しんで参加できるようになっていました。そうなると、自然と仲間意識も生まれ、この仕事の楽しさも知り、どんどん研究会や仕事にのめり込んでいきました。
この９年間、決して良いことばかりではなく、大変だったこと、辛かったこともありました。それでも、私が今この仕事を楽しんで続けられているのは、たくさんの出会いと歴代の研究会の仲間がいたからだと思います。

ここ数年は毎年多くの研究会メンバーが入れ替わり、様々な課題を抱えての活動になっていますが、研究会に参加する支援員ひとりひとりが積極的な姿勢で研究会に参加し、そして、時間を楽しむことが研究会の現状を打開する方法ではないかと思います。年齢や経験、所属する法人もそれぞれ違いますが、誰もが子どもを思いこの仕事に就かれていると思います。地域の子ども研究会では、『地域の子どもたちの豊かな生活・成長を目指す』という同じ志を持つ者同士が互いに刺激しあい、学び合い、支援員としての意識やスキルを高め合えるような集まりであってほしいと思います。

～　一年を振り返って　～

大阪聖和保育園　学童保育ハヌル

松山照子

私は今年度初めて大地協に参加しました。

施設では学童保育の担当になって2年目です。

放課後に学童期の子どもたちと充実した時間を過ごしたいという思いもあって、あまり情報も得られなかったので、何か研修に行って学ぶことができたらな～という思いで参加させてもらいました。

初日は私が思い描いていたスタイルとは全く違い、カルチャーショックのようなものを感じました。

学童支援員や、学童保育のベテランの方がたくさんおられました。専門用語が飛び交い、何の話をされているのかも全く理解できず、ついていけずに圧倒された感じがすごくありました。

他園はどんなふうに学童保育をされているのかな？と、軽い情報交換のつもりで参加した私は、すごいところに来てしまった！と、言うのが正直な気持ちでした。

そんな、衝撃の初！大地協参加を終え、早1年が過ぎました。

大地協はすごく歴史があり、根が深く、たくさんの人々の思いが詰まって作りあげられてきたということがわかりました。

私は施設事情のこともあり、行事には参加していませんが、色々なことを話し合えたり、聴いたり、また、自分の意見も聴いてくださったりと、大地協で学ぶことがたくさんありました。

大地協で得たものを、全て施設に持ち帰り反映することは難しいと思いますが、自施設に合ったものを取り入れ最大限に反映させていきたいと思います。

１年間ありがとうございました。

２０１６年度の振り返り

四貫島友隣館　子どもの家
荻野　遙馬

今年度から地域の子ども研究会に参加させていただきました。

研究会が始まった当初から戸惑うことばかりで、会議の最中も、皆さんの話を聞くことに精一杯で何も貢献できていなかったと反省しています。しかしこれまで他施設の先生方とお話をすることは研修の機会以外ほとんどなかったので、勉強になることが大変多い一年でした。

情報交換の時間には経験年数も過去の経歴も何もかもが違う先生方の中に混ざり、子どもに対する思いやアプローチ方法、保護者対応やケース検討など様々なテーマで話をしていく中で自分の疑問や不安も解消されていきました。

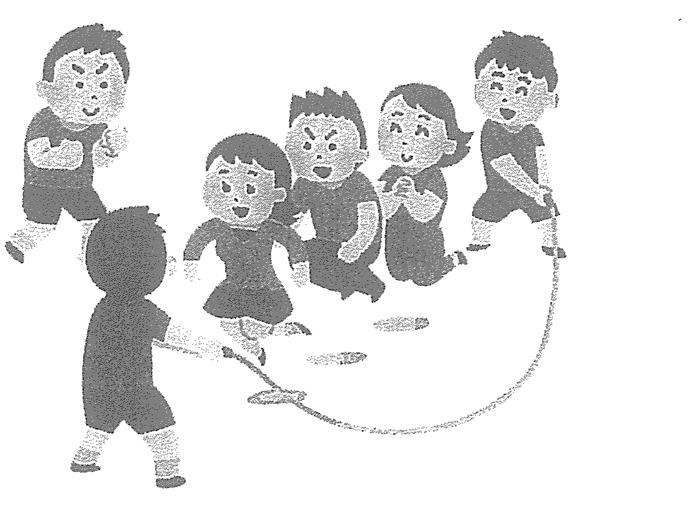
以前勤めていた学童では学校内だったこともありほとんど校外に出ず、子どもたちの行動は校内で完結していましたし、他施設との交流というものを気にしてきませんでした。が改めて考えると“他との交流”は子どもの視野を広げ、人間関係を深めるために必要です。

大地協主催の行事はどれも大規模で多くの施設の子どもたちが集まり、子どもたちにとっても視野を広げ、人間関係を深めるいい機会となると思います。学校、学童だけでではない、他の地域の子ども達との交流はなかなか経験できないことであると思いました。

自施設の事情で、多くの行事には参加できませんでしたが、そのたびに、漠然と「交流を」「他の施設の子と仲良くなりましょう」などと子どもに言うばかりで、具体的に自分から何をしたらいいのかよく分かっておらず、行動ができていませんでした。しかしそういった行事ごとに先生方が自施設の子どもたちに積極的に話しかけに来て下さり、子どもたちも楽しそうに話をしていました。その姿を見ていくうちに、まずは先生同士・先生と他施設の子どもが仲良くなり先導してあげれば、子どもたちも子どもたち同士で交流をしてくれるのではないかと気づくことができました。

指導員として自施設に関わって一年。子どもたちより自分が成長させられる一年でしたがまだまだ勉強することばかりです。

まずはこれをきっかけに、少しでも子どもたちの豊かな生活と成長に繋がっていけるように努力をしていきたいと思います。



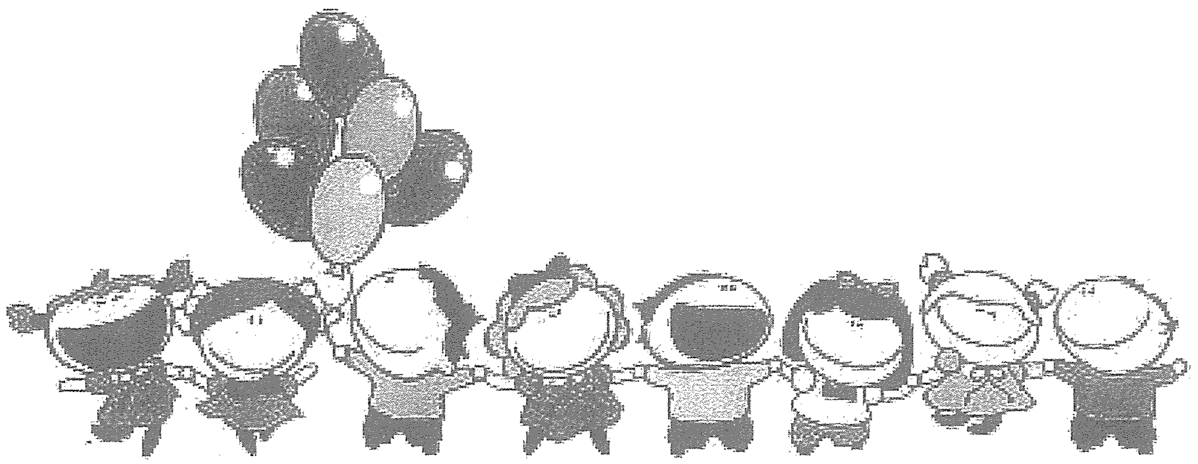
１年間を振り返って

やまと保育園子どもの家
山口理沙

今年から子どもの家の指導員になり、初めて研究会に参加させていただきました。

研究会に参加しても分からないことが多く、意見を出し合っている中、ついて行くので精一杯でした。その中で、情報交換を通して他施設の行事や遊び、保護者対応などの様々な話を聞く機会があり多くのことを学ぶことができました。
グループ活動では『子どもたちの活動』グループに参加しました。ドッチボール大会、合同遠足、ともだちフェスティバルなどの他施設との合同行事の中で、子ども同士の関わりを持つために、どのような遊びをしたらいいのか。顔見知りから名前を知ってもらえるようにするには。など他施設同士の子どもとの関わりの話し合いを重ねました。１年生から６年生の異年齢で考えることが難しい部分もありましたが、その分子どもたちが行事に参加した時『〇〇施設の子や!!』と覚えていると嬉しく思いました。

今年は「知る・学ぶ」ことの多い一年になりました。
初めてのことだらけで、大変なこともありましたが、子どもたちの成長を間近で見ることができ、充実した１年間を過ごすことができました子どもとの関わりの中で、信頼関係を築く難しさを感じ悩みましたが、一緒に遊んでいくうちに少しずつ信頼してくれるようになり日々嬉しく思っています。しっかりと叱る所は叱り、遊ぶところは一緒に遊び、より一層信頼関係を結んでいかなければならないと実感しました。
研究会に参加してみて、私自身が思っている事だけでなく、経験のある先生の違った視点での意見を聞く事ができ、これからも一つの視点にとらわれず違う視点で物事を考えていきたいと思います。子どもたちが大人になって“子どもの家に行って良かった”と思ってもらえるような環境を作り、研究会で学んだことを少しでも子どもたちに返していきたいと思います。



2016年度　地域の子ども研究会　参加施設一覧

施設名	郵便番号	住所	電話番号	FAX
愛染橋児童館 子どもの家	556－0006	浪速区日本橋東 2－9－11	6632－5640	6632－5645
阿さひ保育園 つくし会	545－0051	阿倍野区旭町 3－1－6	6631－4718	6631－1607
育徳園 子どもの家	545－0021	阿倍野区阪南町 5－15－28	6621－1901	6629－1979
今池こどもの家	557－0003	西成区花園北 2－16－26	632－7020	6632－7020
今川学園 子どもの家	546－0003	東住吉区今川 3－5－8	6713－0277	6719－4755
四貫島友隣館 子どもの家	545－022	此花区春日出中 1－15－13	6461－3713	6462－1072
長居子どもの家	558－0004	住吉区長居東 4－11－16	6691－3369	6691－8292
望之門 学童クラブ	545－0052	阿倍野区阿倍野筋 5－13－17	6651－8650	6652－8841
平和の子 子どもの家	535－0022	旭区新森 7－1－5	6954－0524	6954－1961
都島児童館 子どもの家	534－0021	都島区都島本通 3－16－10	6921－4385	6921－4385
やまと保育園 子どもの家	559－0014	住之江区北島 3－17－1	6682－1746	6682－1786
アフタースクール KIDS なみよけ	552－0001	港区波除 4－4－18	6583－5230	6583－5231
アフタースクール KIDS かわぐち	550－0021	西区川口 3－1－23	6599－9070	6599－9071
大阪聖和保育園 学童保育　ハヌル	544－0034	生野区桃谷 5－10－29	6731－6112	6718－2595

発行

2017年3月31日

特定非営利活動法人

大阪市地域福祉施設協議会